

生涯学習推進テーマ

「ゆたかな学び 未来につなぐ 人づくり」

～ 家庭の教育力の充実について ～

提 言 書



令和4年6月  
日立市社会教育委員会議

## 目次

1	はじめに	1
2	家庭教育とは	2
3	家庭教育における現状と課題	4
4	家庭教育に関する保護者の意識	7
5	家庭の教育力の充実を図るための手立て（提言）	10
(1)	家庭教育に関する学びの場や相談に足を運べない保護者への支援	12
(2)	保護者の子育てへの精神的負担の軽減と家庭・地域のつながりづくり	15
(3)	これからの家庭教育を推進していくための視点	18
6	おわりに	22
7	参考資料	
(1)	日立市の対象年齢別家庭教育関連事業	24
(2)	小学生の保護者を対象とした「家庭教育」に関するアンケート【総合版】	25
(3)	小学生の保護者を対象とした「家庭教育」に関するアンケート【学年別版】	34
(4)	提言書の作成経過	42
(5)	日立市社会教育委員名簿	43

## 1 はじめに

令和に入り、社会は新型コロナウイルス感染拡大への対応、少子高齢化、経済のグローバル化、生活の多様化に加え、未来社会「Society5.0(ソサエティ 5.0)※」と言われるデジタル化、働き方の変化等の潮流が加速しています。私たちの働き方・生き方が更に問われる人生100年時代を迎えています。

私たち社会教育委員は、時代の変革期を迎える今こそ、これらの変化に適応していく好機としてとらえました。前回の提言の趣旨である「人づくり」「地域づくり」「子育て親育ち」をベースに、各委員がこれまで培ってきた実践活動で得た工夫や知識を出し合いながら、多くの話し合いの場をもちました。協議の結果、「人間教育の原点である、日立市にふさわしい家庭教育の充実」を目指し、自助、公助、共助の役割を明確にし、未来の日立市に向けた「日本一の家庭教育支援戦略」を構築したいと考えました。

私たちは、これらの思いから、「家庭の教育力の充実」を基本理念としました。この目標を達成するための手立てとして、具体的な3つのテーマを設定し、提言することにしました。

### 【家庭の教育力の充実について】

- 1 家庭教育に関する学びの場や相談に足を運べない保護者への支援
- 2 保護者の子育てへの精神的負担の軽減と家庭・地域のつながりづくり
- 3 これからの家庭教育を推進していくための視点

今回の提言が、未来を拓く人づくりに役立つことを願っております。

※内閣府の「第5期科学技術基本計画」によると、社会は狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)の順序で進化・発展しており、Society 5.0とは、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)であると定義されています。

## 2 家庭教育とは

家庭教育は、主として保護者が子どもに対して、家庭内で行う教育的行為のことであり、すべての教育の出発点であると言われていています。

家族の触れ合いを通して、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身に付けていく上で、重要な役割を果たしています。

子育てには多くの努力が必要であり、困難も伴いますが、親にとって子どもの成長は喜びであります。家庭教育は、親の責任であると同時に、親の喜びでもあるということを明確にし、家庭教育を通して子育てに喜びを見い出せるようにしていきたいと考えます。

国は、家庭教育の重要性を鑑み、2006（平成18）年に教育基本法を改正し、第10条に「家庭教育」を、第13条に「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」を新たに規定しました。

### 教育基本法（抜粋）

平成18年12月22日法律第120号

#### （家庭教育）

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

#### （中略）

#### （学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

家庭教育の根底にあるものは「共有」「共学」「共育」「共感」であり、相手への思いやりやあいさつの大切さなど「あたりまえ」なことを大人が子どもに伝えていくことは、今までも、これからも大切にしていきたいことです。

子どもたちがこれからの社会を生き抜いていくために、家庭で育みたいもの、家庭において大切にしていきたいことには、以下のようなことが挙げられます。

- ・ 早寝早起き朝ごはん
- ・ あいさつをする
- ・ 身の回りの整理整頓
- ・ お手伝い
- ・ 我慢する心
- ・ 善悪を区別する力
- ・ 思いやりや優しさ
- ・ 家庭での学習習慣
- ・ ルールを守る
- ・ 言葉づかい
- ・ 自分のことは自分でしようとする心
- ・ 努力する心
- ・ コミュニケーションの力
- ・ メディアと上手に付き合う力
- ・ 自分を大切にする心
- ・ 奉仕の心
- ・ 豊かな自然体験
- ・ 地域を愛する心

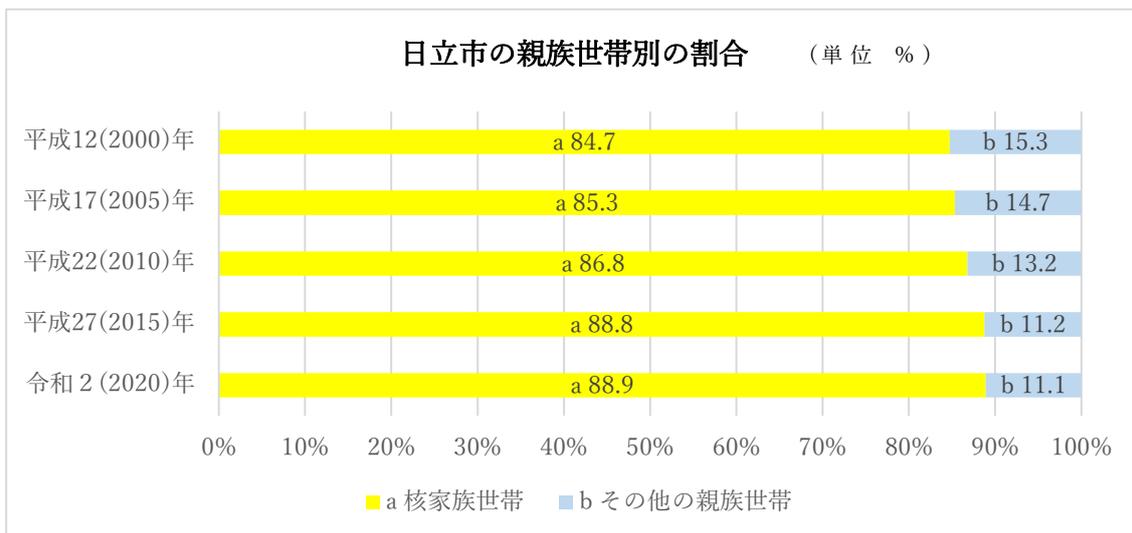


### 3 家庭教育における現状と課題

#### (1) 核家族化・世帯の変化

急速な都市化や核家族化、地域における地縁的なつながりの希薄化が進んだ結果、子育てへの負担が親のみにかかるようになってきています。親子の学びや育ちを支える世代間の教育機会（知識・知恵の伝承）、地域と接する機会が少なくなっており、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまう傾向が見られます。

本市においても、親族世帯（核家族、三世代家族等）の中では、核家族世帯の割合が増加しています。

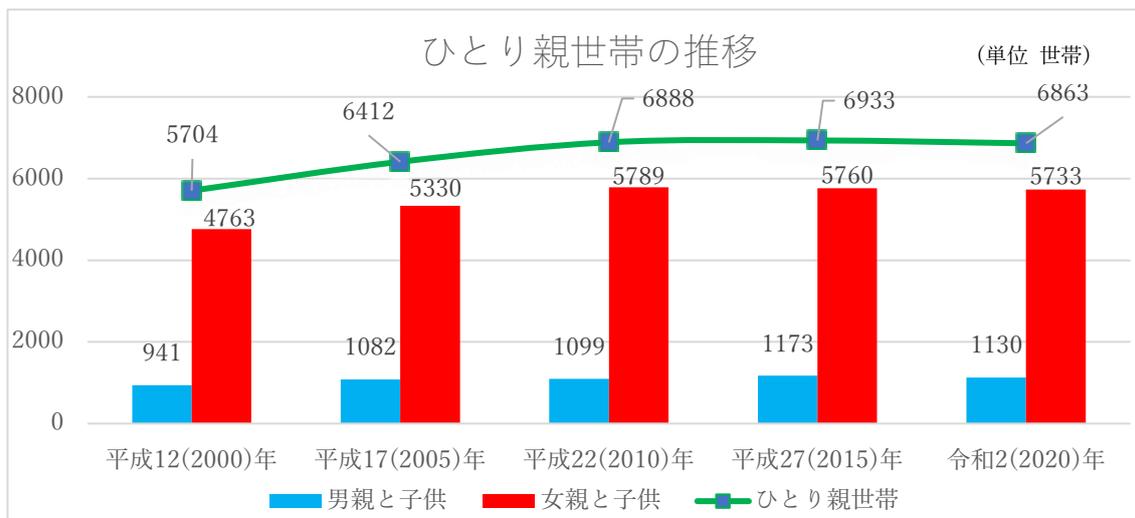


(出典) 国勢調査(2020年)

#### (2) ひとり親世帯・共働き家庭の増加

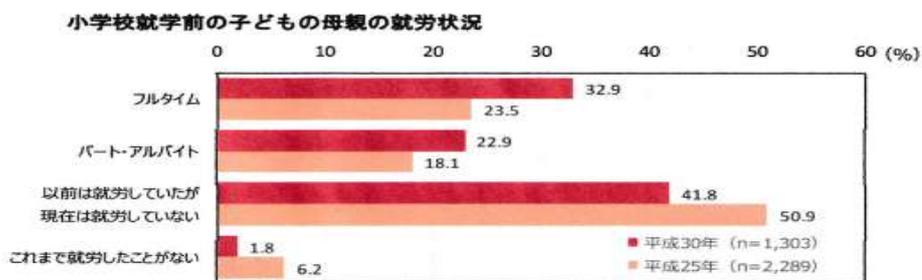
今日の社会は、核家族化、ひとり親世帯や共働き家庭の増加など、家庭環境が多様化する中で、支援を必要とするような家庭が少しずつ増加しています。

本市においてもひとり親世帯の割合は、年々増加しています。ひとり親家庭は、仕事、子育て、家事などをひとりで担わなければならない、その精神的・肉体的な負担は大きいものとなっています。

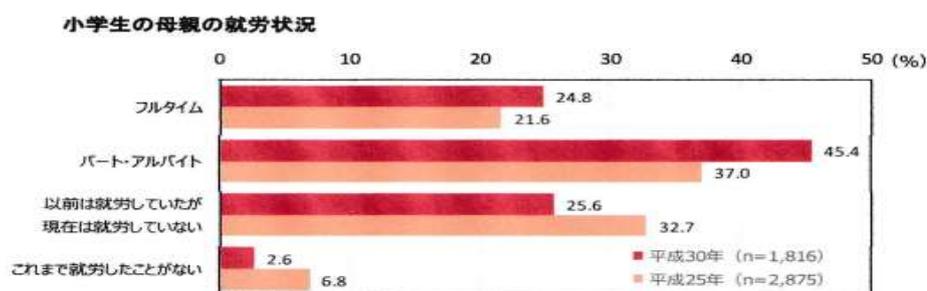


(出典) 国勢調査 (2020年)

また、共働き家庭も増加しています。「平成30年度日立市子育て支援等に関するニーズ調査」の結果では、小学校就学前・小学生の子どもの母親の就労は、5年前の調査と比べて共に増えており、特に小学生の母親については、フルタイムとパート・アルバイトでの就労を合わせると、全体の7割を超えています。



資料：日立市子育て支援等に関するニーズ調査



資料：日立市子育て支援等に関するニーズ調査

家庭内で子育てを抱え込み、学びの場にも行けない、子育てを相談できる相手がない等、困っているケースがあります。子育てのプレッシャーがかかる保護者から、本音を聞きだす場も求められています。また、子育てや家庭教育に関する講座や相談が行われても、支援を必要としている家庭、支援を届けたい家庭に情報が届いていないことがあります。

### (3) 本市における就学後の家庭教育支援

「妊娠期から子どもの自立まで切れ目のない家庭教育支援」が必要です。本市では、未就学児に対し、福祉や保健でこの視点を中心に様々な機会を捉えて保護者にアプローチしており、就学後は、子どもの体験の機会提供や学習支援など、学校教育と連携しながら進めています。【参考資料 1 参照 (P.24)】

今回は、主にこの視点を中心に検討していきます。

本市では、目指す教育の姿と施策の方向を示すため、学校教育に加え、生涯にわたる学習やスポーツ活動の推進、福祉との連携を含む総合的な教育計画として、「日立市教育振興基本計画」を策定しています。生涯学習分野の施策の柱の一つとして、「地域や家庭における教育力の向上」を掲げており、さらに施策の方向性として「家庭の教育力の充実」を取り上げています。

令和 2 年に本会議が提言した「市民が主役となる地域コミュニティ活動を目指す、人のつながりを大切にしまちづくり」の中でも、「子育て親育ち」として家庭教育について提言しています。

コロナ禍における小学生の子どもを持つ保護者に対して、家庭教育に関する意識等を把握するためのアンケートを実施しました。【参考資料 2・3 参照 (P.25～)】

【調査概要】

- ・実施時期 令和 3 年 2 月 9 日(火)～ 2 月 1 9 日(金)
- ・実施人数 2 5 8 人
- ・実施学年 1 年生 1 2 3 人、6 年生 1 3 5 人
- ・実施学校 南部・中部・北部小学校 各 1 校

(1) 家族状況

ア 何世代家族か

二世世代家族は 82.4%、三世世代家族は 17%でした。

さらに詳しく見ると、子と両親の二世世代家族が 70%で最も多く、子と両親と祖父母の三世世代家族が 15%で次に多い結果になりました。

(2) 家庭教育に関する現状

ア 家庭教育について悩むことがあるか

「よく悩む」が 17%、「ときどき悩む」が 61%で、「あまり悩まない」は 22%でした。「よく悩む」「ときどき悩む」を合わせた、家庭教育について悩むことがある保護者は 78%でした。

イ 家庭教育について、どのようなことで悩んだり気になったりするか

「インターネットや携帯、テレビ等のメディアとの接し方」が 62%と最も多く、次いで「身の回りのことを自分でできるように習慣づけること」と「学習習慣づくり」が 50%でした。

学年別にみると、小学 1 年生の親が最も悩んでいるのは「身の回りのことを自分でできるように習慣づけること」で 55%、次に「しかり方、ほめ方」で 54%でした。

小学6年生の親が最も悩んでいることは「インターネットや携帯、テレビ等のメディアとの接し方」で74%、次に「学習習慣づくり」で48%でした。

ウ 家庭教育の悩みについての相談先

「配偶者」が74%と最も多く、「友人・知人」が62%、「親」が50%でした。一方、「相談先がない」と答えた人は2%という結果になりました。

エ 家庭教育についての情報の入手先や入手方法

「家族や友人等から」が89%と最も多く、「インターネットやSNS」が64%と次に多い結果になりました。

(3) 保護者の求める家庭教育支援

ア どのような家庭教育支援があればいいか

全体では「子どもと一緒に体験・交流できる講座」が40%で最も多く、次に「ホームページやSNSによる情報発信」が29%、3番目に「気軽に相談し立ち寄れる場所」が28%でした。

学年別に見ると、小学1年生では「子どもと一緒に体験・交流できる講座」が50%で最も多く、「気軽に相談し立ち寄れる場所」が27%で次に多い結果になりました。小学6年生では「ホームページやSNSによる情報発信」が32%で最も多く、「子どもと一緒に体験・交流できる講座」が30%で次に多い結果となりました。

(4) 家庭教育への関心

ア 家庭教育について学ぶ機会があれば参加しているか

「進んで参加している」(3%)、「ある程度参加している」(35%)を合わせた「参加している」保護者は38%でした。一方、「あまり参加していない」と答えた保護者は59%でした。

イ あまり参加していない理由

「仕事が忙しく時間がない」が46%と最も多く、次に「家事や育児などが忙しく時間がない」が18%でした。

また、「その他」を選んだ人が 13%おり、その中でも「学ぶ機会があることを知らない」と答えた人が多い結果になりました。

(5) コロナ禍での家庭教育

ア コロナ禍により家庭教育に関する新たな悩みが生じたか（記述回答）

全体では「インターネット、スマートフォン、動画、テレビ、ゲーム等の関わり（以降、「メディアとの関わり」と言う。）に関する悩みが 31 人（30%）と最も多く、「家庭での学習習慣の確立、学力の低下」が 17 人（17%）、「外遊びの減少、外に出なくなった」が 15 人（15%）でした。

学年別に見ても、すべての学年で「メディアとの関わり」に関する悩みが最も多い結果となりましたが、2 番目に多かったのは、小学 1 年生が「外遊びの減少、外に出なくなった」で 9 人（17%）、小学 6 年生が「家庭での学習習慣の確立、学力の低下」で 12 人（24%）でした。

イ コロナ禍により新たにできた家庭のルールはあるか（記述回答）

全体では「新型コロナ予防についてのルール（手洗い、マスク着用）」が 41 人（46%）で最も多く、「メディアに関するルール」が 18 人（20%）で次に多い結果になりました。

学年別でも全体と同じ結果になりましたが、小学 1 年生で 3 番目に多かったのが「学習に関するルール」で 4 人（11%）、小学 6 年生が「体を動かす習慣作り」で 8 人（16%）でした。

## 5 家庭の教育力の充実を図るための手立て（提言）

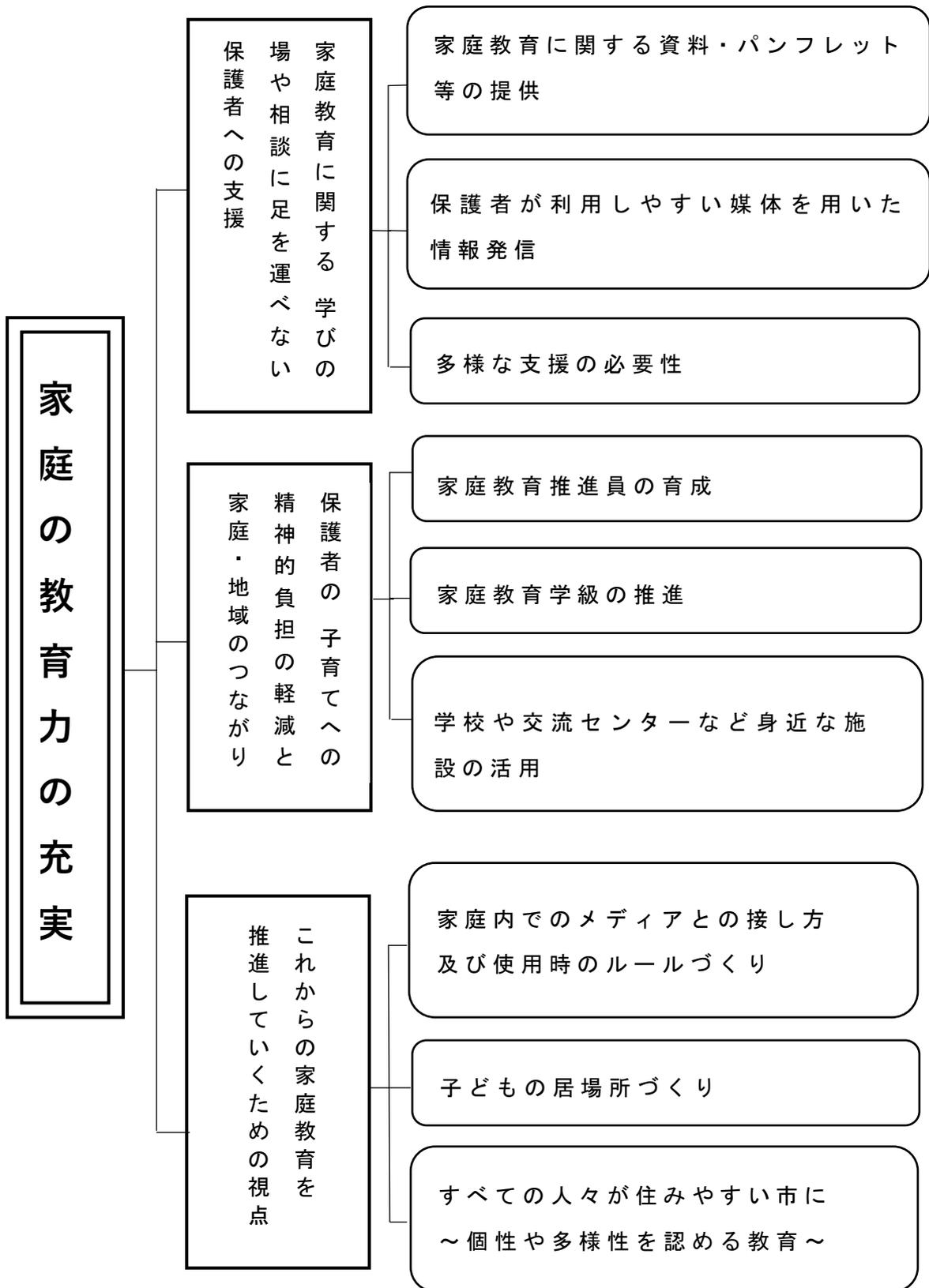
〔方向性〕

本市では、家庭教育に悩む保護者が多く、様々な支援が必要です。今回は、特に小学生の子どもを持つ保護者に対する支援の強化について検討します。

はじめから立派な親がいるわけではなく、苦勞して子育てをしながら子どもと一緒に親も育っていきます。社会全体で親と子を支えるという考えの下で、親の成長の支援を行うことが必要だと考えます。

具体的な手立てとして、以下の3点について提言します。

- (1) 家庭教育に関する学びの場や相談に足を運べない保護者への支援
- (2) 保護者の子育てへの精神的負担の軽減と家庭・地域のつながりづくり
- (3) これからの家庭教育を推進してくための視点



## (1) 家庭教育に関する学びの場や相談に足を運ばない保護者への支援

### ア 家庭教育に関する資料・パンフレット等の提供

家庭教育に関する学びの場になかなか来られない保護者にとって、いつでも読むことができる資料やパンフレットの提供という手段は有効であると考えます。

令和3年10月から、市報が全戸配布となりました。このことを活用し、家庭教育についてのお知らせやコラム等を市報に定期的に掲載し、より多くの保護者に家庭教育について知ってもらう機会とすることを提言します。

「子育ての体験談」などがあると、読者が自分に置き換えて考えたり、子育てのヒントにしたりできるのではないのでしょうか。

また、本市では「ハッピー子育て 日上市子育て支援ハンドブック」を作成し、配布しています。「子育て親育ち」のページでは、0歳から5歳ごろまでの子どもの発達についてと子育てのアドバイスが掲載されています。現在、各小学校では、茨城県発行の子育てアドバイスブック「クローバー」「つばき」を紹介し、子育て情報の提供をしていますが、「日立ならでは」のアドバイスを求めている保護者も多いのではないのでしょうか。今後は、「子育て親育ち」のページに、小学校に就学してからの子育てのヒント、日々の生活の中で起こり得る具体的な場面への対応や課題解決、学校生活に関わること等の情報を追加することを提言します。

#### おもな取組

- 市報に家庭教育情報、コラム（1年に3回）を掲載
- 子育て応援ハンドブックの「子育て親育ち」に就学後の子育てについても掲載

## イ 保護者が利用しやすい媒体を用いた情報発信

アンケートの「家庭教育に関する情報の入手先」として、「インターネットや SNS」と回答した人が 64%と 2 番目に多い結果となりました。

インターネット、ケーブルテレビ等、子育て中の保護者が利用しやすい様々な媒体を用いて情報提供を行っていくことは大変有効であると考えます。

令和元年度から始まった日立市公式地域情報アプリ「ひたちナビ」の配信は、子育て中の保護者や妊娠期のプレパパ・プレママ世代への情報伝達として効果的な手段となっています。今後は、子育てのワンポイントアドバイスや、地域の遊び場に関する情報、家族で遊びに行けるイベント情報、子育てについて気軽に相談したり情報交換したりするコンテンツなど、家庭教育についての内容を更に充実し、より多くの方に利用されるようにします。

### □おもな取組

- 「ひたちナビ」や市のホームページで子育てに役立つ情報を配信（プッシュ通知）
- ケーブルテレビ JWAY で子育て情報を紹介
- FM ひたちで子育て情報を紹介

## ウ 多様な支援の必要性

アンケートの「保護者が家庭教育を学ぶ機会に参加していない理由」として、一番多いのが「仕事が忙しいから」となっています。

共働きの家庭の増加に伴い、学校の授業参観や行事に来られない、家庭教育を学ぶ機会に参加できない保護者が増えています。

そのための支援として、市の職員や家庭教育推進員が企業、保護者の職場に訪問して家庭教育の情報の入手先や相談先等を紹介することを提言します。母親だけでなく、父親にも学習機会を提供することができるのではないのでしょうか。昼休みや休憩時間などを利用して、短時間で簡単な出前講座を取り入れてくれる企業を増やすことも重要です。

また、「家庭教育の悩みについて相談先がない」と、育児不安を抱えながらも孤立している家庭が存在していることも、アンケートの結果から分かりました。

本市では、就学前は乳児家庭訪問や乳幼児健診時の発達相談、就学後は、各学校での家庭訪問や保護者面談、スクールソーシャルワーカーの家庭訪問などの取組を行っています。しかし、子育てについての相談機関は多くあるものの、なかなか自分から相談に行くには勇気がいるものです。そんな時、話し相手になり悩みを聞いてくれる存在があれば、保護者の心に余裕ができ、安心して子どもと向き合うことができるのではないのでしょうか。

茨城県で推進している「訪問型家庭教育支援」は、受容、共感、傾聴の姿勢で定期的に訪問し、保護者に寄り添う取組です。家庭教育の場に来られない保護者への家庭教育支援だけでなく、虐待などの問題の未然防止や早期発見・早期対応につなげているとの報告があります。人材の確保が課題となると思われませんが、本市でも推進していく必要があると考えます。学校や保健福祉部など様々な組織と連携を強化し、支援体制を充実させていきます。

おもな取組

- 企業を訪問しての家庭教育に関する情報提供
- 訪問型家庭教育支援

## (2) 保護者の子育てへの精神的負担の軽減と家庭・地域のつながりづくり

### ア 家庭教育推進員の育成

現在、本市では、家庭教育支援を進めていく家庭教育推進員の人材が足りないのが課題となっています。定期的に家庭教育を提供できるように、家庭教育の基本を知り、子どもや保護者に寄り添い、大事なことを伝えられる指導員の育成を進めていく必要があります。

県主催の家庭教育推進員養成研修会について広く周知し、地域の方にも参加していただき、家庭教育のリーダーとして育成してはどうでしょうか。各地域で家庭教育推進員による講座や啓発ができれば、身近な場所で家庭教育が提供され、気軽に相談する機会が生まれ、保護者の心の安定につながります。地域ごとの子育ての問題点に気づき、人権教育も含めた多様な家庭のかたちを尊重した学びの場となるのではないのでしょうか。また、児童クラブや放課後子ども教室のスタッフの中にも家庭教育推進員がいれば、保護者が子どもの迎えに来たときに子育てについての相談をすることができ、更なる支援につながります。保護者がいつでも誰でも家庭教育推進員に相談できる場になるような体制づくりを提案します。

#### □おもな取組

- 家庭教育推進員の確保・育成
- 各地域における家庭教育の相談体制構築

## イ 家庭教育学級の推進

現在、各小学校では、ほとんどの保護者が参加する就学時健康診断や入学説明会などの機会を活用し家庭教育講座を行うことで、保護者が負担感なく参加できるよう工夫しています。しかし、入学前に1回きりの開催になっているのが現状です。更なる家庭教育推進のため、入学後も学校での保護者会や地域の講座などで、定期的に家庭教育学級を開催していくことを提言します。

各学校や地域で複数回家庭教育学級を開催することができれば、同年代の子どもを持つ保護者同士の交流が増え、身近に子育ての相談をできる場になり、保護者の精神的負担の軽減につながるのではないのでしょうか。

アンケートの「保護者が求める家庭教育支援」で最も多かったのは、「子どもと一緒に体験・交流できる講座」です。保護者は、子どもが一緒であると参加しやすいのではないかと思います。講座の内容も、ただ話を聞くだけでなく、交流ができる場や体験ができる場があると良いと考えます。親子で参加できる活動の中に、家庭教育の学びの機会を提供してはいかがでしょうか。

例えば、地域の清掃や防災教室、食育講座、学校での親子学習会など、地域や学校が関わりながら親子で共有し活動することで、保護者の精神的負担を軽減し、家庭教育の学びにつながるような取組を増やしていくことを提案します。

### □おもな取組

- 就学時健診や入学説明会における家庭教育講座の開催
- 定期的に家庭教育を提供する場の設定
- 親子で体験・交流できる講座、活動の開催

## ウ 学校や交流センターなど身近な施設の活用

子育て中の親が気軽に集える場の提供や親子で参加できる活動の企画など、身近な施設を利用した支援を行うことを提言します。

子ども達が毎日通う学校や、日立市子どもセンター、概ね各小学校区に設置されている交流センターを家庭教育の場として活用するのは、とても効果的であると考えます。

平日の退勤後や土日など、幅広い時間帯での講座の開催や、来た人が気おくれしないような入り口や雰囲気づくりなどにも工夫が必要です。

例えば、交流センターを地域の交流の場にするのはどうでしょうか。子育てに関する日常の悩みや疑問を掲示板に投稿することで、同世代の保護者や先輩方から助言をもらったり情報交換したりすることができます。身近に相談する場があるというのは、保護者に安らぎを与えるとともに、地域全体で、子育てを支えていくことにつながります。

### □おもな取組

- 学校、日立市子どもセンター、交流センターなど身近な施設での幅広い時間帯の家庭教育講座の開催
- 地域交流の契機となる場の提供

### (3) これからの家庭教育を推進していくための視点

#### ア 家庭内でのメディアとの接し方及び使用時のルールづくり

現在、大人にも子どもにもスマートフォンは生活の一部となっています。コロナ禍により、家庭での時間が増え、インターネット、スマートフォン、テレビ、ゲームなどのメディアの利用頻度が上がったため、メディアとの関わりに対する問題意識が高まりました。アンケートからは、30代以上の世代は、子どものメディアとの接し方に戸惑い悩んでいることが分かりました。

家庭内でのメディアとの接し方及び使用時のルールづくりについては、まず第一に保護者がメディアについて知る、ということが大切ではないかと考えます。

小・中学校で、親子を対象としたスマートフォンの使い方や諸問題についての研修会が実施されています。今後も学びの機会を継続して、提供していくことを提言します。研修会の際、メディアと睡眠の関係や、発達への影響、生活リズムを整えるために意識すること等についても触れ、家庭でのルールづくりについて改めて考える機会とするよう啓発を続ける必要があると考えます。

#### □おもな取組

- スマートフォンについての親子研修会の実施
- メディアに関する家庭でのルール作りについての啓発

## イ 子どもの居場所づくり

現在、子どもたちの遊び場・くつろげる場・集う場等が非常に少なくなっています。子どもたちの遊ぶ場がインターネットなどを通じた疑似的・間接的なものとなり、人やもの、自然に直接触れるという体験の機会が減少しつつあります。また、共働きの家庭が増えたことから、子どもたちの放課後や休日の居場所づくりも課題となっています。

多くの子どもたちの放課後の居場所づくりのために、放課後子ども教室の開設校や日数の増加、魅力的なプログラムの充実等、更に事業を拡充することを提言します。

本市では、学校や公共施設を利用して、放課後を安全・安心に過ごせる放課後子ども教室を開設しています（令和3年度は市内13教室実施）。地域の方がゲストティーチャーや子どもたちを見守るサポーターとなり、放課後の子どもたちの居場所づくりを行っています。異学年の友だちや地域の方と触れ合う中で、コミュニケーション能力や協調性が高まったり、自分の良さや得意なことを見つける場になったりする効果があります。

放課後子ども教室は、以前のように地域の大人が地域の子どもたちを育てるきっかけになるのではないかと考えます。

また、本市では、地域の行事や市内イベントへの参加、市内公共施設等での見学や体験などを通して、自分が住むまち“ひたち”を知り、学ぶことを目的とした「ひたち大好きパスポート」を小中学生に配布しています。更なる利用促進のために広報の仕方を工夫して、子どもの休日における活動の場を広げます。

さらに、どの地区においても子どもたちが安心して遊べるよう、概ね小学校区ごとに設置している交流センタ

ーが居場所の一つとなることを提言します。「元気カフェ」のように、住み慣れた地域の中で「いつでも、誰でも、安心して集まれる」場所として存在してほしいと考えます。

子どもの居場所の確保は、保護者の居場所づくりにもつながります。子どもの遊び場を通して、保護者同士や居場所のスタッフと交流し、保護者が安心とつながりを強めていくことを期待します。

おもな取組

- 放課後子ども教室の充実
- 「ひたち大好きパスポート」の利用促進
- 交流センターの子どもたちの利用促進

## ウ すべての人々が住みやすい市に

### ～個性や多様性を認める教育～

価値観の多様化や国際化が進む中、日本の社会の中でも「多様性」がキーワードとして取り上げられるようになりました。各学校では、国籍、性、障害等にかかわらず、お互いの価値を理解し、個性や多様性を認める教育を行っています。これからは家庭教育においても、個性や多様性を認める手立てが必要ではないでしょうか。

県では、外国語で記された家庭教育支援資料を作成しています。また、本市でも、行政手続きや医療・福祉、ごみの出し方、相談窓口の紹介などの情報を掲載したガイドブックを発行しています。しかし、それらの取組について、必要としている保護者に届いていないことがあります。学校や交流センター等に定期的に情報を発信し、就学時健診や学校行事、地域のイベントで紹介してもらうことで、外国につながるのある家庭への支援につなが

ると考えます。

また、アンケートでは、「家庭教育の悩みの相談先」として、50%が「祖父母」と答えています。共働きやひとり親家庭が増えており、祖父母の力を借りることで、子育てを充実することができています。県では孫育ての視点から家庭教育を支援する冊子「孫育て応援ナビ」を作成しています。祖父母世代が現在主流の育児方法や世代間の意識の違いについて理解を深め、孫育てや地域での子育て支援へ積極的に関わっていくきっかけづくりとなることが期待できます。本市でも、もっと情報提供していくべきです。

外国の文化と日本の文化、伝統的な考えと若者の考え、お互いを認めつつバランスを取っていくことが大切です。

□おこな取組

- 外国語で作成された家庭教育資料について周知
- 「孫育て応援ナビ」について紹介



人間教育の原点は、誕生から大人までの家庭教育の在り方にあります。時代がどのように変化しようが変えてはいけない理念があります。

人格形成に関する資質・側面として、「生きぬく力」、「愛する力」、「学ぶ力」、「役立つ力・貢献する力」などが大切だと言われています。

特に、今回の提言活動では、家庭環境の変化に伴って、「生きぬく力」を強化しなければならない就学前及び小学生の家庭教育の在り方を中心に、活発なグループ討議を展開し、生きる力の不十分のまま、社会に出してしまうリスクを回避するよう心掛けました。

「学びの場や相談に足を運べない保護者への支援」では、どういった方を対象にして、どのような情報をどのように提供するのが効果的であるかなど、時と場を選び、保護者のニーズに合った支援の仕方について提言しました。

また、手立ての一つとして、子どもを通じて伝えることも可能であるという意見も出されました。家庭内の会話等が増えれば、子どもの心の内を知ることができる機会もあるので、そこから親も学びを得られます。「親の支援と共に子どもありき」であることを踏まえた支援体制を構築することが大切であることを再確認しました。

「保護者の精神的負担の軽減・家庭と地域とのつながりづくり」では、子どもと保護者の抱える課題を解決するために、地域も関わりをもった家庭教育支援が必要であることを踏まえ、家庭教育推進員の確保と交流センターの活用について提言しました。

「これからの家庭教育の視点」では、家庭教育の根底にあるものを再確認し、新しい時代の家庭教育支援の在り方について提言しました。メディアとの付き合い方に関しては、生活が

豊かになることを有効活用しつつ、疑似的なものだけでなく  
実体験をも学ぶことが大切であり、地域とのつながりも必要  
であるということも再確認しました。

この2年間は、新型コロナウイルス感染症拡大により、家庭  
教育の在り方や生き方について、改めて考える機会となりま  
した。制限されることは多くなりましたが、コロナ禍だからこ  
そのメリットを考えるよう視点を変えてみると、家族で一緒  
にいる時間が増えた、ふれあいの部分ができたと良い点も  
たくさんあるのではないのでしょうか。家族一丸で困難を乗り  
越えていくという意識をもち、絆が強まった家庭が多いこと  
を願います。

今回の提言から、保護者一人一人が、家庭教育についての大切  
さを自覚し、様々な体験・活動を通じてまわりとのつながり  
を深めることで、家庭の教育力が充実し、「ゆたかな学び 未  
来につなぐ 人づくり」が実現するのではないかと考えます。

【参考資料1】

日立市の対象年齢別家庭教育関連事業

対象	内容	事業名【担当課】	概要
初めて出産を予定されている方・配偶者	学び・情報提供	プレパパ・ママの子育てスクール【健康づくり推進課】	沐浴指導、妊婦体験、赤ちゃんのお世話の仕方について学ぶ。子育てについて夫婦で相互理解を深めるきっかけづくりをする。
出産を予定されている方、乳幼児	読書活動・情報提供	図書館「子育て支援コーナー」【図書館】	幼児向けの絵本と妊娠、出産、育児に関する本があるほか、子育てに支援に関する情報を提供している。
妊娠期～18歳	相談	子育て世代包括支援センター「すこやか・ひたち」【健康づくり推進課】【子どもセンター】 【子育て支援課・子ども施設課】	保健センター・子どもセンター・子育て支援課・子ども施設課の連携によって、妊娠、出産の不安、育児やしつけの悩み、保育園・認定こども園への入園など、さまざまな相談に応じている。
新生児	相談・情報提供	乳児家庭全戸訪問事業「こんにちは赤ちゃん訪問」【健康づくり推進課】	新生児期（生後28日以内）から、生後4か月頃までの乳児のいるすべての家庭を保健師、助産師等が訪問し、子育てについての相談、子育てに関する情報提供を行う。
0～2歳	交流・相談・講座	子育て広場【子どもセンター】	親子で楽しめる遊びや交流、子育てに関する講座（0歳コース、1・2歳コース）、子育て相談などを開催。各交流センターなどで実施。
①0歳 ②0歳～就園前	交流・相談・情報提供	保健センターの親子ふれあいの場・育児相談 ①0歳児の広場 ②ふれあいコーナー【健康づくり推進課】	①1歳未満児と保護者が交流できる場。健康に関する講話、育児相談などを実施。新型コロナウイルス感染防止のため今年度は中止。 ②子育てに関する情報を得られる。
乳幼児（2歳の誕生日まで）	読書活動	ブックスタート【図書館】	赤ちゃん向けの絵本や身近な子育て支援情報などの入ったバックをプレゼントする。
乳幼児	相談	乳幼児健康診査 ①乳児健康診査 ②1歳6か月児健康診査 ③2歳児歯科健康診査 ④3歳児健康診査 ⑤5歳児健康診査【健康づくり推進課】	健康診断のほか、育児相談も行っている。 5歳児健康診査では、子どもに困り感が見られるときには、保健センターで実施する5歳児健診へ案内する。
乳幼児	交流・相談	おもちゃライブラリー【社会福祉協議会・各交流センター】	親子がおもちゃを通して楽しく遊び、親同士や地域との交流を広げるふれあいの場。保育士等を派遣し、子育てに関する相談にも応じる。 ・福祉プラザ（週3回）、23地区の各交流センター（週1回又は月2～3回）
乳幼児	啓発・育成・情報提供	日立市青少年育成会議 家庭教育部会【女性若者支援課】	・各学区コミュニティで親子教室の実施 ・親子教室の事前研修会 ・子育て支援啓発冊子の配布
乳幼児	相談	子どもの広場【社会福祉協議会】	発育・発達面、しつけ、生活リズム、夜泣き、離乳食など栄養、卒乳、歯みがき、予防接種などの発育に関する相談に応じている。 ・十王子子どもの広場、南部子どもの広場にて週に4日実施
18歳未満（主に乳幼児）	相談	総合相談【子どもセンター】	子どもセンターに相談員が常駐しており、18歳未満の子どもとその家庭に関する相談を受けている。必要に応じて専門機関やサービスの紹介もしている。
18歳未満（主に乳幼児）	交流・相談・講座	ふれあい広場【子どもセンター】	親子が一緒に遊んだり、おしゃべりしたりできる広場。子育て相談や講座、交流もできる。
18歳未満（主に乳幼児）	講座・交流	親と子のサポーター事業【子どもセンター】	親育ち、子育てを応援する講座やおしゃべりティータイムなどを地域に出向いて行っている。
就学前幼児	啓発・情報提供	就学時健康診断又は入学説明会での家庭教育に関する講話の実施【生涯学習課】	就学時健康診断又は入学説明会において、各小学校の教員または家庭教育推進員が、家庭教育に関する講話を行う。 ・各小学校の教員が家庭教育に関する講話を実施。
小学校低学年	啓発	小学校低学年の児童をもつ保護者向け家庭教育の啓発【生涯学習課】	親子学習会の前後に、茨城県家庭教育推進員による、家庭教育に関する講話を30分程度実施。
小中学生	啓発・情報提供	委員会事業【日立市小・中学校PTA連合会】	単会PTA会長会議や委員会での研修会及び議論等の実施。
小中学生	啓発	①出前食育教室 ②出前歯科講座【健康づくり推進課】	①小中学生や保護者を対象に、食の大切さや健康づくりのための食生活についての講話を実施。 ②歯と口の健康を守るために、虫歯や歯周病予防についての講話やブラッシング指導を実施。
中学生	啓発	歯と口の健康教室【健康づくり推進課】	中学1年生を対象に、虫歯や歯周病についての基礎知識、喫煙が口や歯に与える影響などを学ぶ教室を実施。
小中高年生	啓発	思春期教育 ①「いのちの教育」小中学生 ②「ライフプラン教育」高校生【健康づくり推進課】	①思春期の若者や保護者を支援するため、医師や助産師等の協力を得て、小中学校との連携により「いのちの教育」を実施。 ②高校との連携により「ライフプラン教育」を実施。
乳幼児～小学生	講座・交流	コミュニティでの家庭教育関連事業【各コミュニティ】	各学区コミュニティの青少年育成部等による家庭教育関連事業を実施。 ・家庭教育学級 ・親子教室 ・あいさつ運動 ・わんぱく隊（自然体験・豊かな心） ・おもちゃライブラリー 等
乳幼児～小学生	情報提供	ひたち子育てミニ通信「すくすくプチ」【子育て支援課】	子育て中の母親による子育てに関する情報誌。 2月、7月、11月の年3回発行。

【資料 2】

小学生の保護者を対象とした「家庭教育」に関するアンケート【総合版】

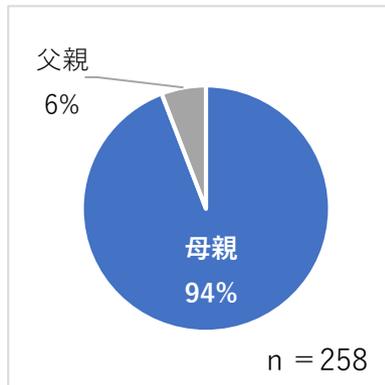
■実施時期 令和3年2月9日（火）～2月19日（金）

■実施人数 258人

■実施学年 1年生 123人、6年生 135人

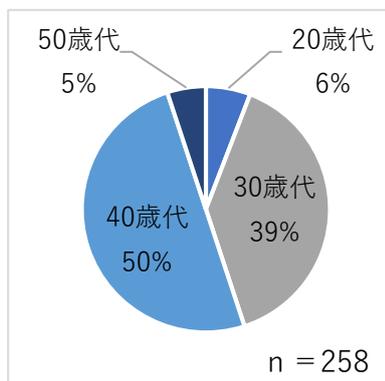
■実施学校 坂本小学校、油縄子小学校、滑川小学校

1 あなたとお子さんの続柄についてお答えください。



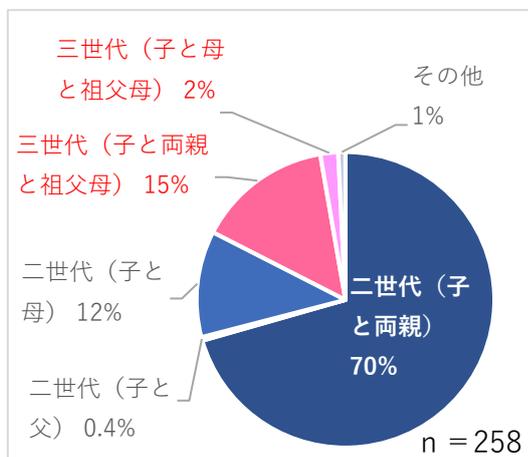
	人数 (人)	割合 (%)
母親	243	94
父親	15	6

2 あなたは何歳代ですか。



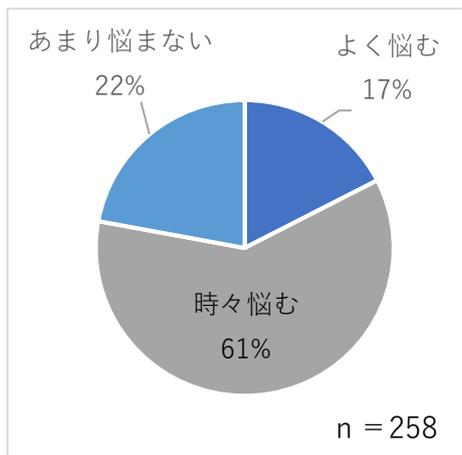
	人数 (人)	割合 (%)
20歳代	15	6
30歳代	101	39
40歳代	129	50
50歳代	13	5
60歳代	0	0

3 あなたの家は何世代家族ですか。

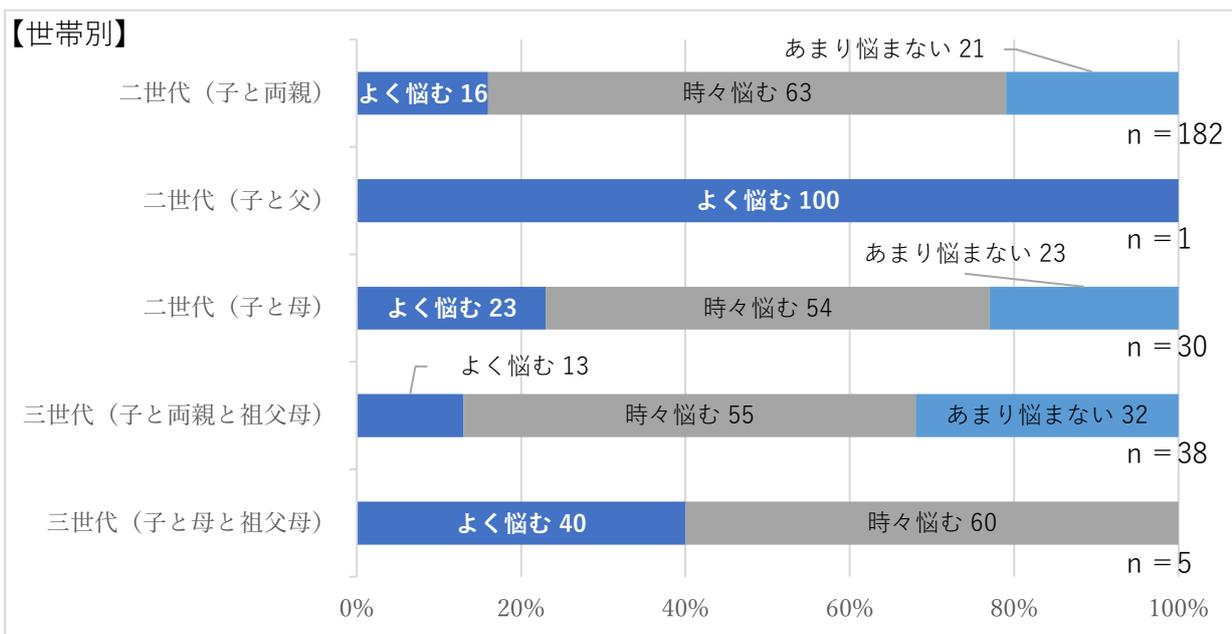
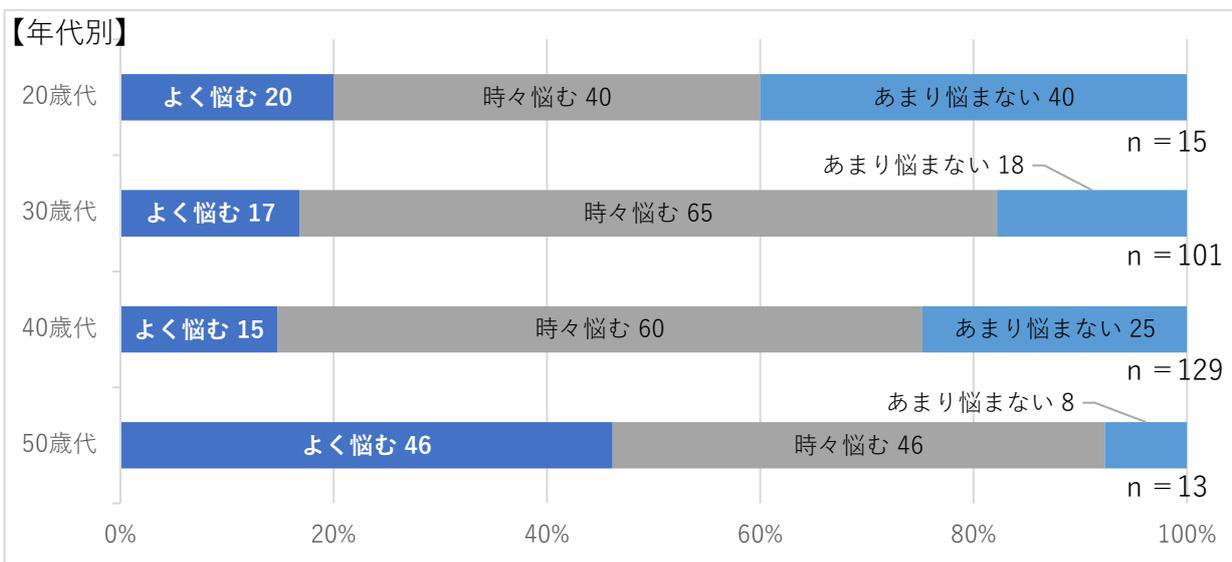


	人数 (人)	割合 (%)
二世代 (子と両親)	182	70
二世代 (子と父)	1	0.4
二世代 (子と母)	30	12
三世代 (子と両親と祖父母)	38	15
三世代 (子と父と祖父母)	0	0
三世代 (子と母と祖父母)	5	2
その他	2	1

4 お子さんを育てていく上で、家庭教育について悩むことがありますか。

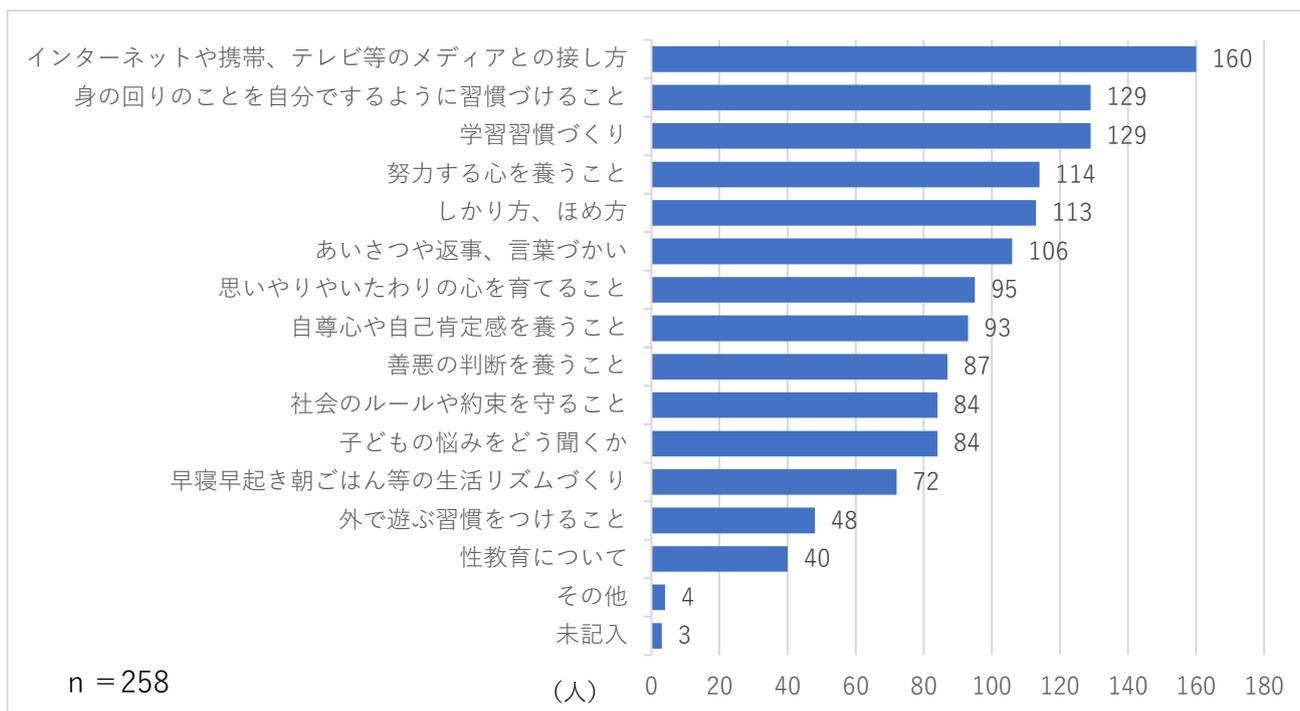


	人数 (人)	割合 (%)
よく悩む	45	17
時々悩む	156	61
あまり悩まない	57	22



(注) 二世帯 (子と父) 回答数 1 名

5 家庭教育について、どのようなことで悩んだり、気になったりしますか。複数回答



	人数 (人)	割合 (%)
インターネットや携帯電話、テレビ等のメディアとの接し方	160	62
身の回りのことを自分でするように習慣づけること	129	50
学習習慣づくり	129	50
努力する心を養うこと	114	44
しかり方、ほめ方	113	44
あいさつや返事、言葉づかい	106	41
思いやりやいたわりの心を育てること	95	37
自尊心や自己肯定感を養うこと	93	36
善悪の判断を養うこと	87	34
社会のルールや約束を守ること	84	33
子どもの悩みをどう聞くか	84	33
早寝早起き朝ごはん等の生活リズムづくり	72	28
外で遊ぶ習慣をつけること	48	19
性教育について	40	16
その他	4	2
未記入	3	1

【その他】 友だち関係でのトラブル、友だちとのコミュニケーション、食育、中学校生活について、あまり悩まない

【年代別】 多い順に3つ

( ) : 人数

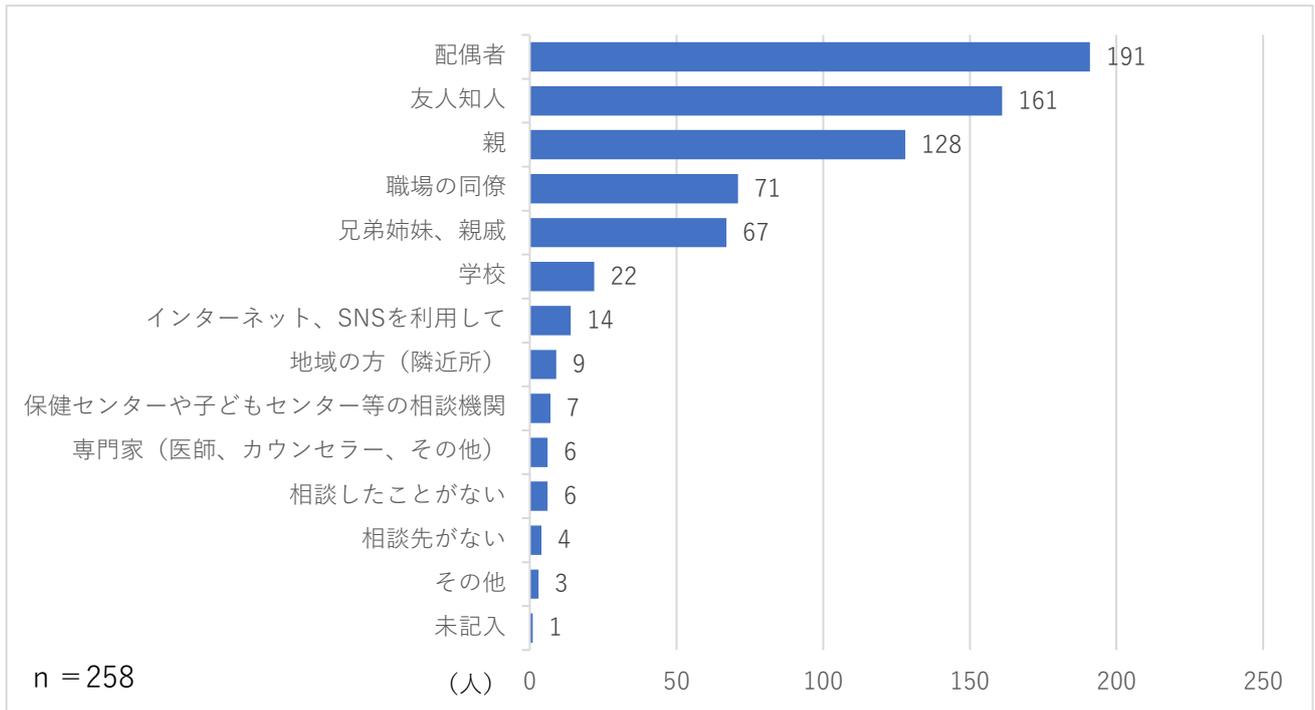
	1	2	3
20 歳代	・あいさつや返事、言葉づかい (9)	・善悪の判断 (8)	・身の回りのことを自分でする (7)
30 歳代	・メディアとの接し方 (56) ・身の回りのことを自分でする (56) ・学習習慣 (56)		
40 歳代	・メディアとの接し方 (88)	・身の回りのことを自分でする (58) ・学習習慣 (58)	
50 歳代	・メディアとの接し方 (10)	・学習習慣 (9)	・身の回りのことを自分でする (8) ・子どもの悩みをどう聞か (8)

【世帯別】 多い順に3つ

( ) : 人数

	1	2	3
二世帯 (子と両親)	・メディアとの接し方 (110)	・身の回りのことを自分でする (95)	・学習習慣 (92)
二世帯 (子と母)	・メディアとの接し方 (19)	・身の回りのことを自分でする (18)	・学習習慣 (15) ・あいさつや返事、言葉づかい (15)
三世帯 (子と両親と祖父母)	・メディアとの接し方 (26)	・学習習慣づくり (19)	・しかり方、ほめ方 (16) ・子どもの悩みをどう聞か (16)
三世帯 (子と母と祖父母)	・しかり方、ほめ方 (4) ・思いやりやいたわりの心 (4) ・善悪の判断 (4)		

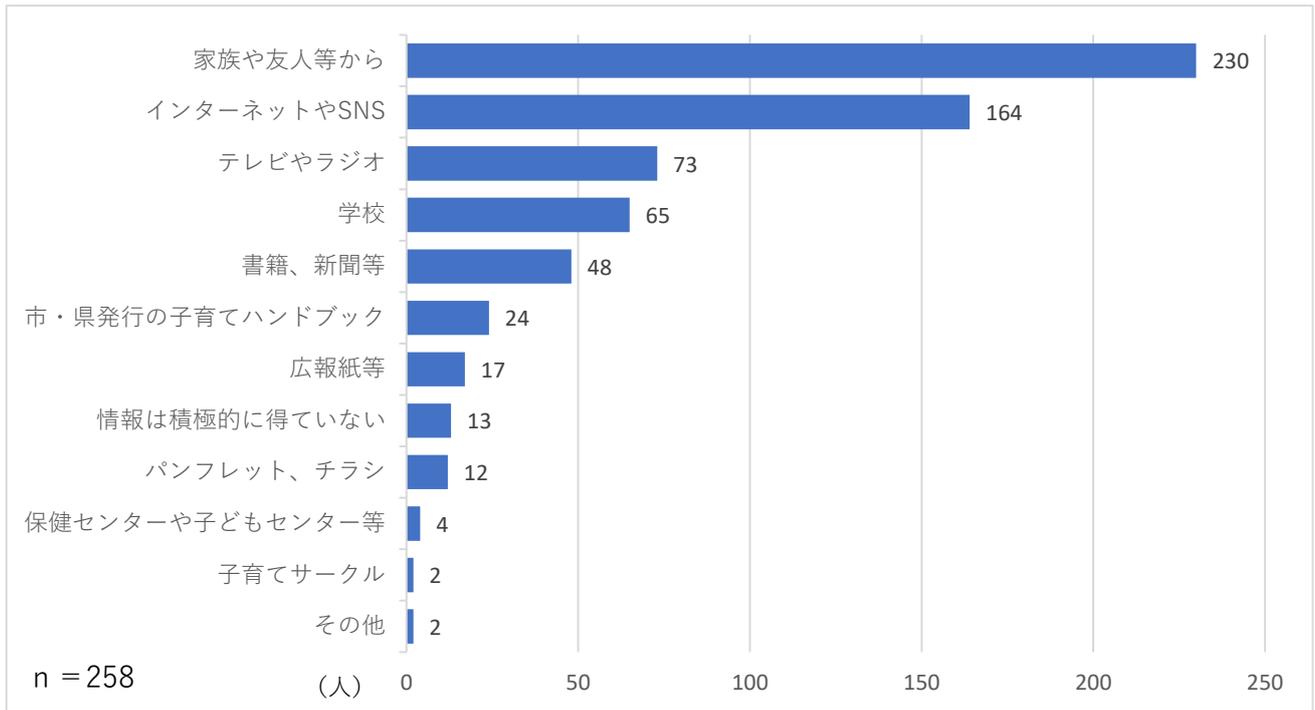
6 家庭教育の悩みについて、誰に、またはどこに相談しますか。複数回答



	人数 (人)	割合 (%)
配偶者	191	74
友人知人	161	62
親	128	50
職場の同僚	71	28
兄弟姉妹、親戚	67	26
学校	22	9
インターネット、SNS を利用して	14	5
地域の方 (隣近所)	9	3
保健センターや子どもセンター等の相談機関	7	3
専門家 (医師、カウンセラー、その他)	6	2
相談したことがない	6	2
相談先がない	4	2
その他	3	1
未記入	1	0.4

【その他】 児童クラブ支援員 (2)、上の子たち

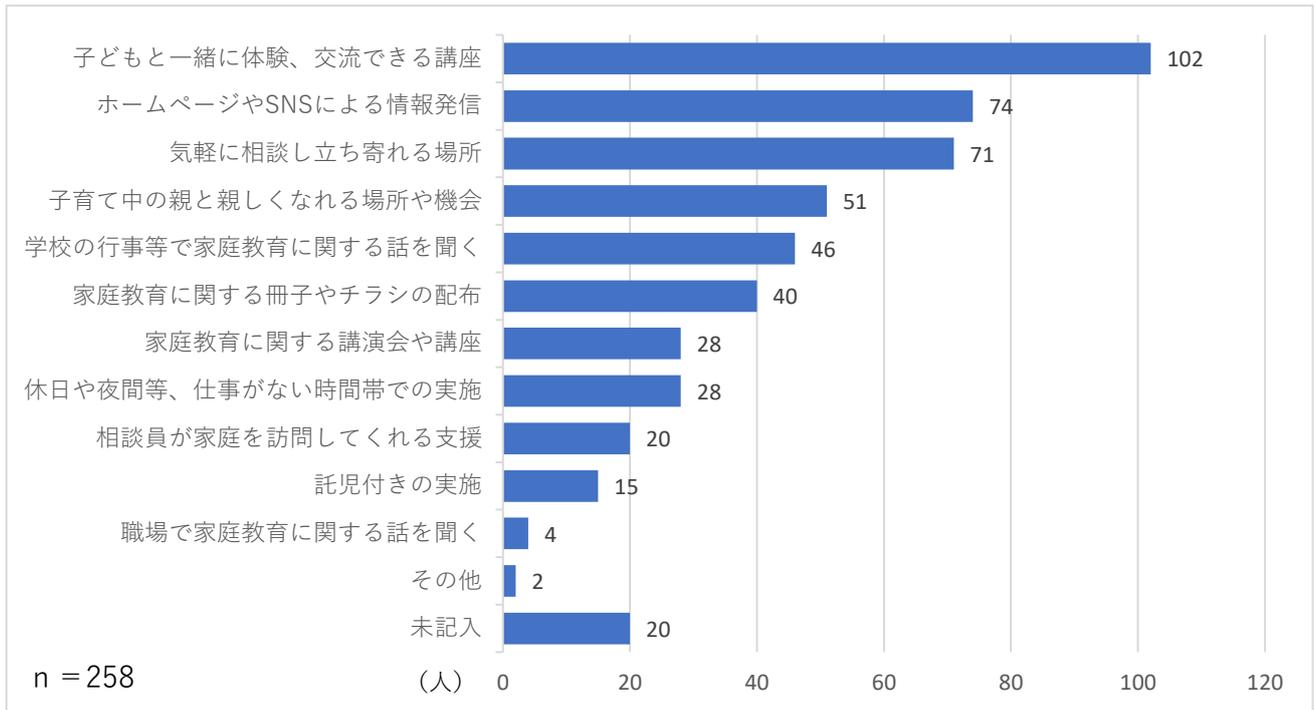
7 家庭教育に関する情報の入手先や入手方法を教えてください。複数回答



	人数 (人)	割合 (%)
家族や友人等から	230	89
インターネットや SNS	164	64
テレビやラジオ	73	28
学校	65	25
書籍、新聞等	48	19
市・県発行の子育てハンドブック	24	9
広報紙等	17	7
情報は積極的に得ていない	13	5
パンフレット、チラシ	12	5
保健センターや子どもセンター等	4	2
子育てサークル	2	1
その他	2	1

【その他】自分のひらめき、情報の入手先が分からない

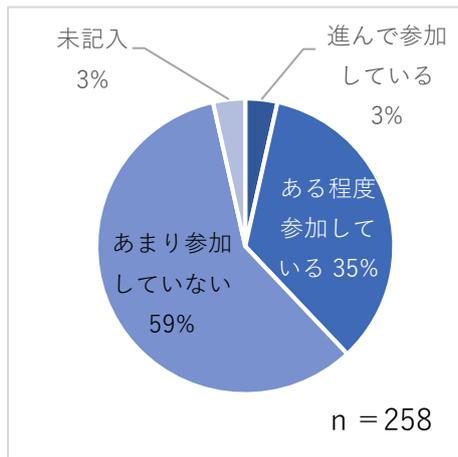
8 どのような家庭教育支援があればいいと思いますか。複数回答



	人数 (人)	割合 (%)
子どもと一緒に体験、交流できる講座	102	40
ホームページや SNS による情報発信	74	29
気軽に相談し立ち寄れる場所	71	28
子育て中の親と親しくなれる場所や機会	51	20
学校の行事等で家庭教育に関する話を聞く	46	18
家庭教育に関する冊子やチラシの配布	40	16
家庭教育に関する講演会や講座	28	11
休日や夜間等、仕事がない時間帯での実施	28	11
相談員が家庭を訪問してくれる支援	20	8
託児付きの実施	15	6
職場で家庭教育に関する話を聞く	4	2
その他	2	1
未記入	20	8

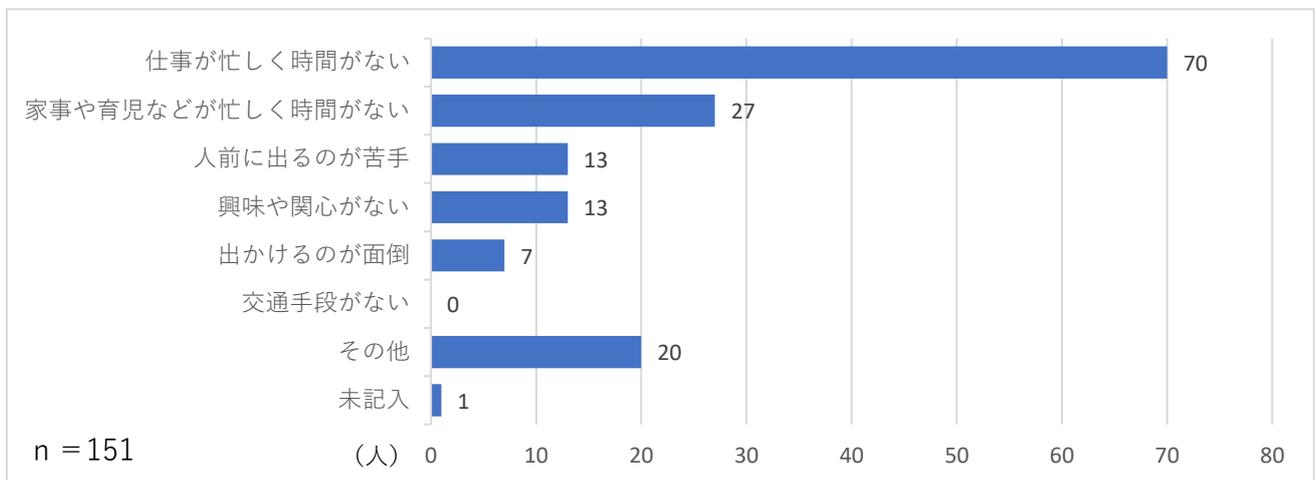
【その他】 いろいろな学区の人と交流できる機会や場所、子どもと親が楽しみながら参加できるもの

9 家庭教育について学ぶ機会があれば、参加していますか。



	人数 (人)	割合 (%)
進んで参加している	9	3
ある程度参加している	89	35
あまり参加していない	151	59
未記入	9	3

10 9で「あまり参加していない」を選んだ方は教えてください。「あまり参加していない」理由として、もっとも当てはまるもの1つを選んでください。



	人数 (人)	割合 (%)
仕事が忙しく時間がない	70	46
家事や育児などが忙しく時間がない	27	18
人前に出るのが苦手	13	9
興味や関心がない	13	9
出かけるのが面倒	7	5
交通手段がない	0	0
その他	20	13
未記入	1	1

【その他】学ぶ機会があることを知らない(5)、参加したいと思うものがない(2)、今まで機会がなかった(2)、まずは家庭で話し合うことが大切、自分がちゃんとしていないことを思い知らされるから参加したくない、第1子ではないため、参加するほど悩んでない、体調が悪いため、教育する側のマナーやモラルが良ければ参加したい、習い事で忙しい、型にはまりすぎてしまうため、相談をしたり自分で調べている、家庭教育に力を入れていない、自分で選んでいる

1 1 コロナ禍により、家庭教育に関する新たな悩みや問題が生じましたか。生じた方は、具体的にお書きください。（記述集計）

記述内容（要約）	回答数（人）
メディアとの関りについて（インターネット、スマートフォン、動画、テレビ、ゲームなど）	31
家庭での学習習慣の確立・学力の低下	17
外遊びの減少・外に出なくなった	15
ストレスの増加	11
体験活動が不足している	8
体力が低下している	6
時間の使い方・生活習慣の乱れ	5
コミュニケーション能力の低下	4
無気力になった	2
自主性がない	1
人と接する機会が減り家庭教育に関する情報が入らない	1
言葉遣いが乱暴になった	1

1 2 コロナ禍により、新たにできた家庭のルールはありますか。ある方は、具体的にお書きください。（記述集計）

記述内容（要約）	回答数（人）
新型コロナ予防（手洗い、マスク着用など）についてのルール	41
メディア（インターネット、スマートフォン、動画、テレビ、ゲームなど）に関するルール	18
体を動かす習慣づくり	8
学習に関するルール	5
生活習慣の確立について	5
お手伝いに関するルール	4
身近な体験活動の充実	3
命の大切さを考える	2
家族のコミュニケーションを大切にする	1
ストレスの発散方法を考える	1
お小遣いの管理をさせるようにした	1

【資料 3】

小学生の保護者を対象とした「家庭教育」に関するアンケート【学年別版】

■実施時期 令和3年2月9日（火）～2月19日（金）

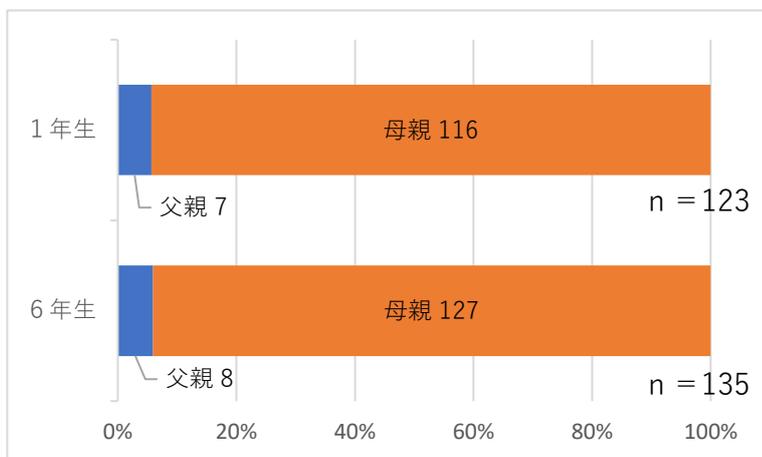
■実施人数 258人

■実施学年 1年生 123人、6年生 135人

■実施学校 坂本小学校、油縄子小学校、滑川小学校

1 あなたとお子さんの続柄についてお答えください。

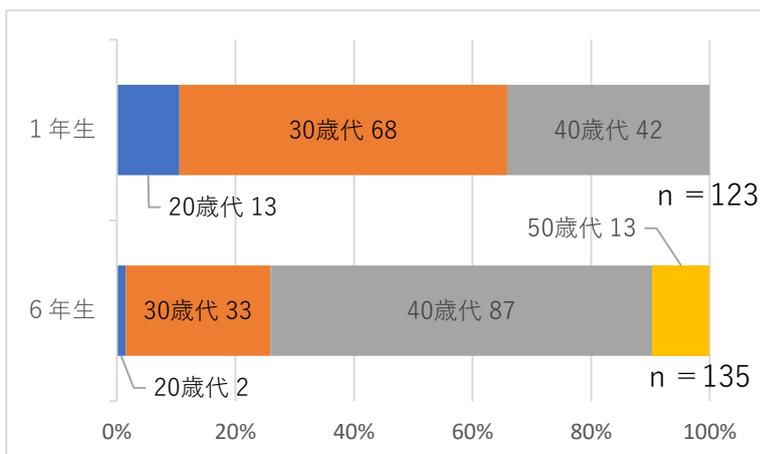
(人)



	1年生	6年生
父親	7	8
母親	116	127

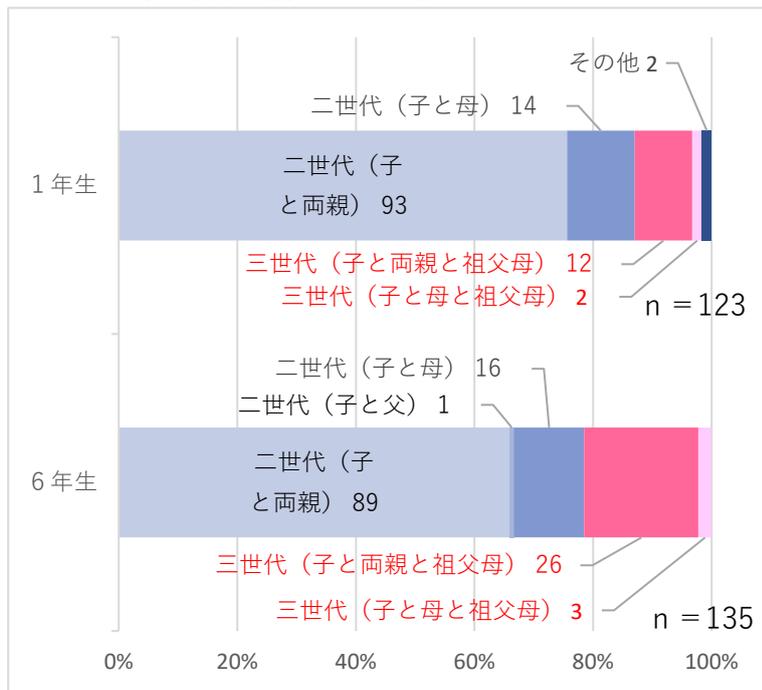
2 あなたは何歳代ですか。

(人)



	1年生	6年生
20歳代	13	2
30歳代	68	33
40歳代	42	87
50歳代	0	13
60歳代	0	0

3 あなたの家は何世代家族ですか。

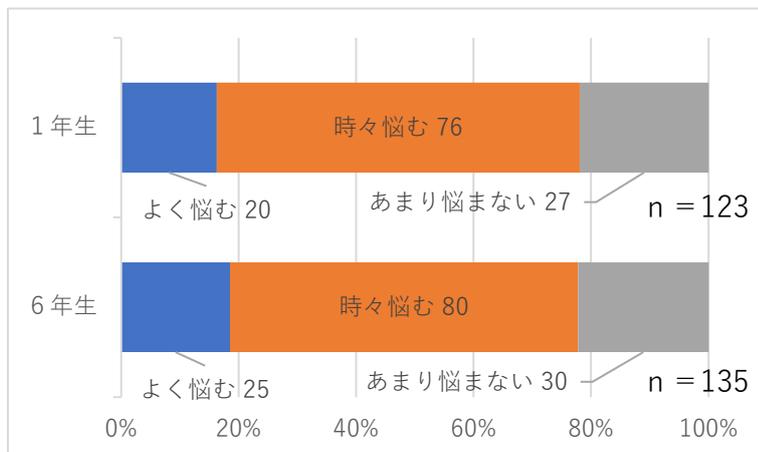


(人)

	1年生	6年生
二世代 (子と両親)	93	89
二世代 (子と父)	0	1
二世代 (子と母)	14	16
三世代 (子と両親と祖父母)	12	26
三世代 (子と父と祖父母)	0	0
三世代 (子と母と祖父母)	2	3
その他	2	0

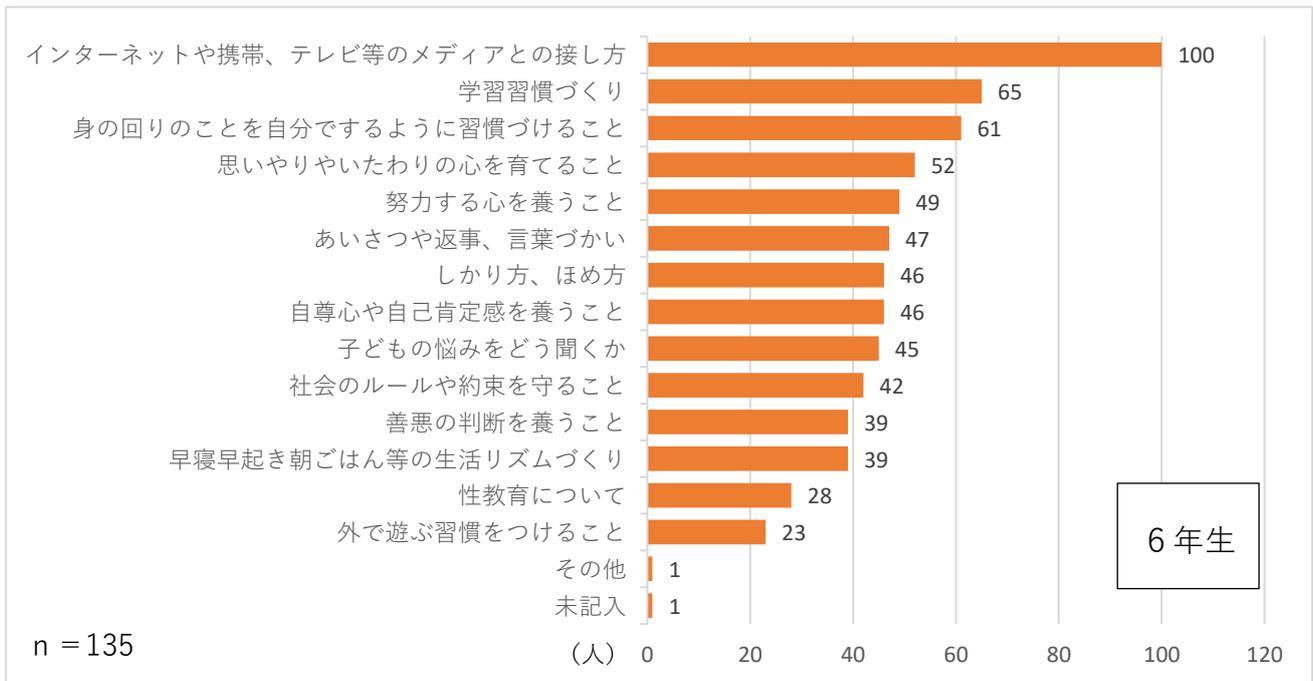
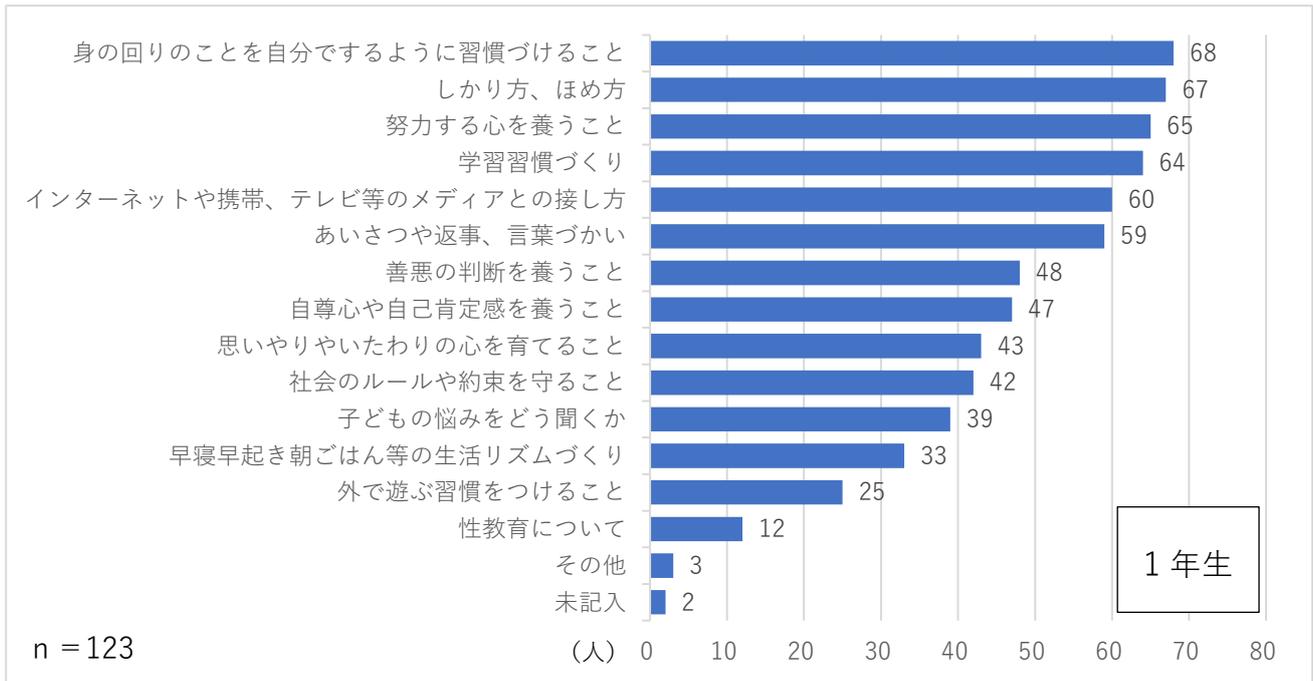
4 お子さんを育てていく上で、家庭教育について悩むことがありますか。

(人)



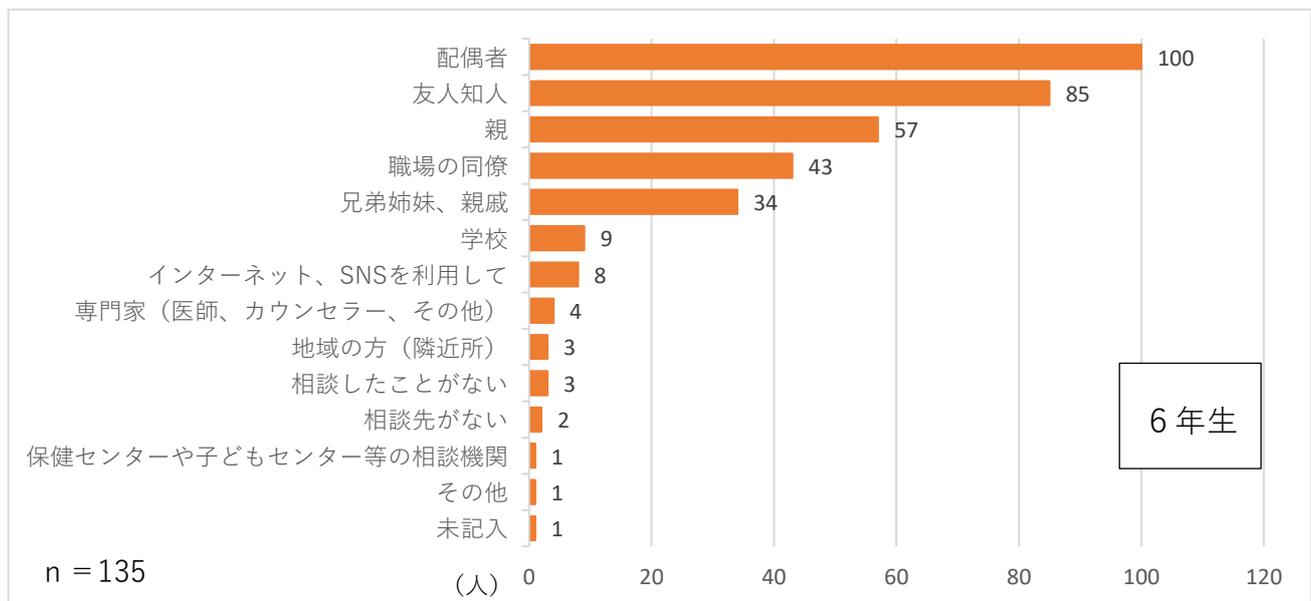
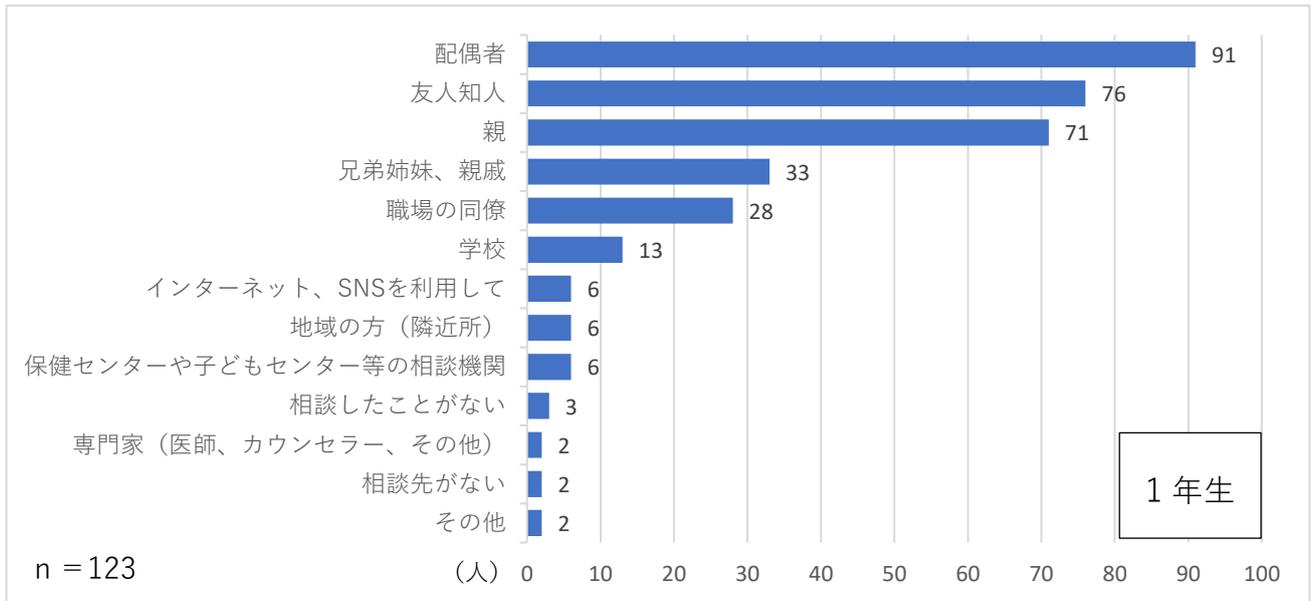
	1年生	6年生
よく悩む	20	25
時々悩む	76	80
あまり悩まない	27	30

5 家庭教育について、どのようなことで悩んだり、気になったりしますか。複数回答



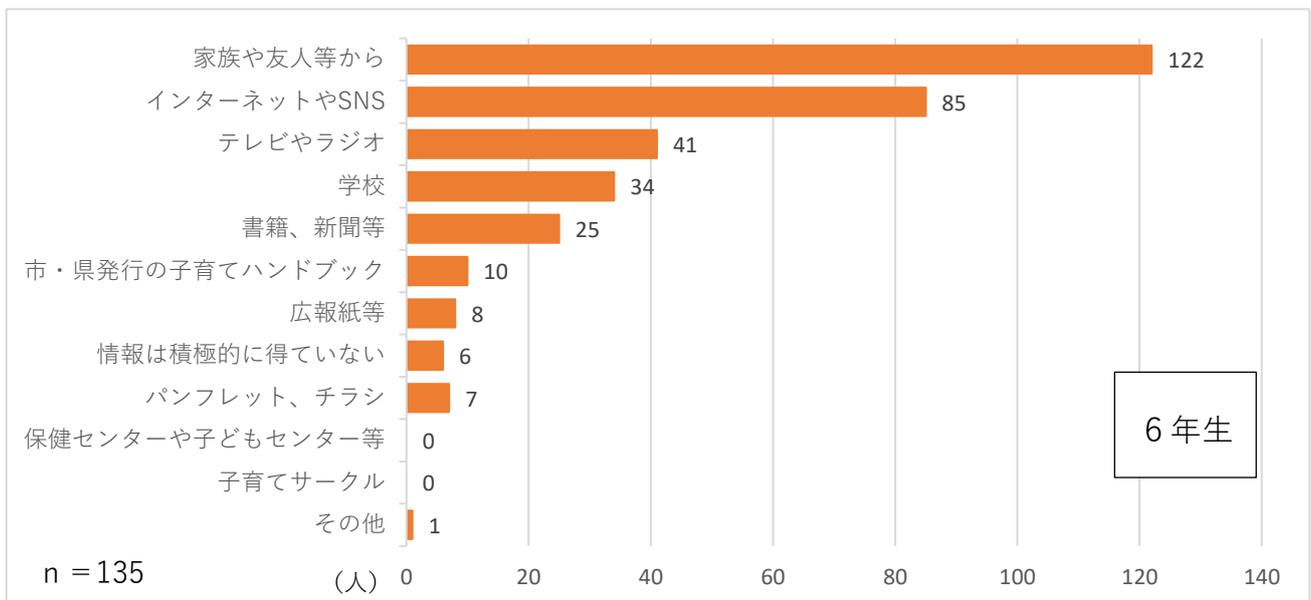
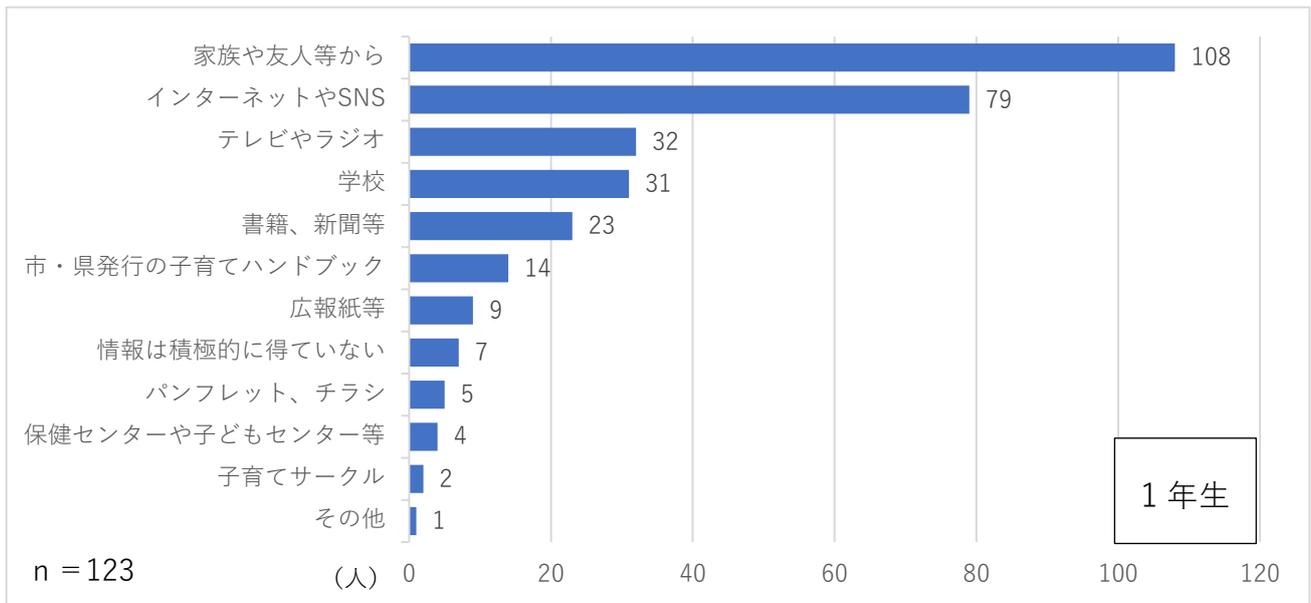
【その他】 友だち関係でのトラブル、友だちとのコミュニケーション、食育、中学校生活について、あまり悩まない

6 家庭教育の悩みについて、誰に、またはどこに相談しますか。複数回答



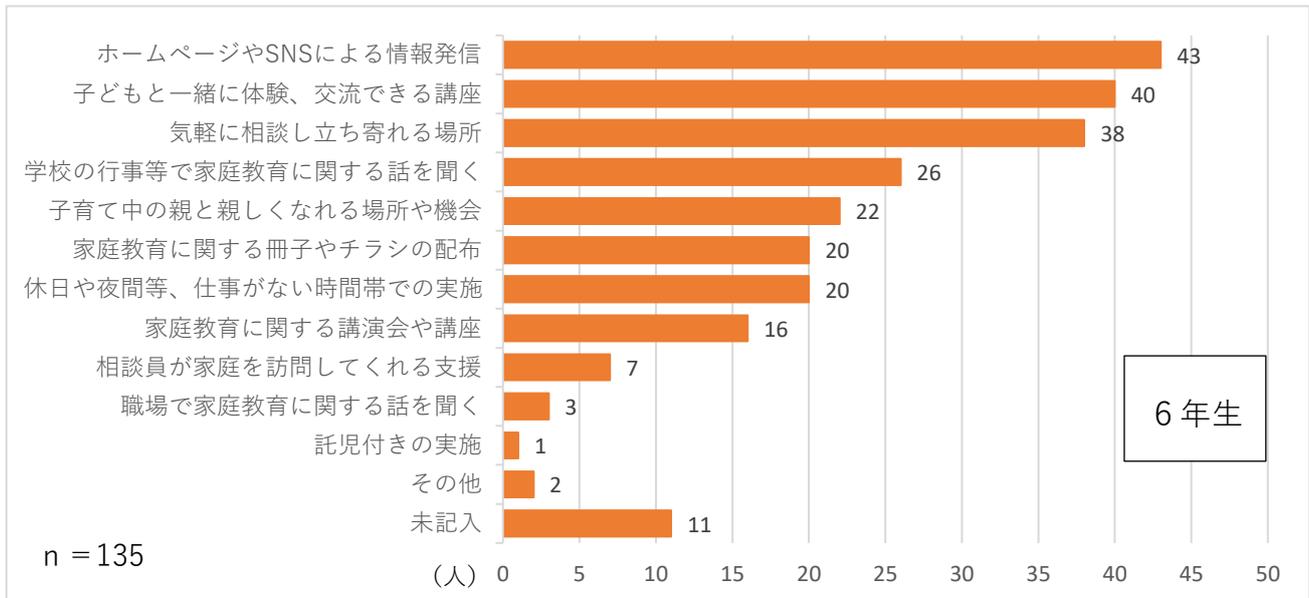
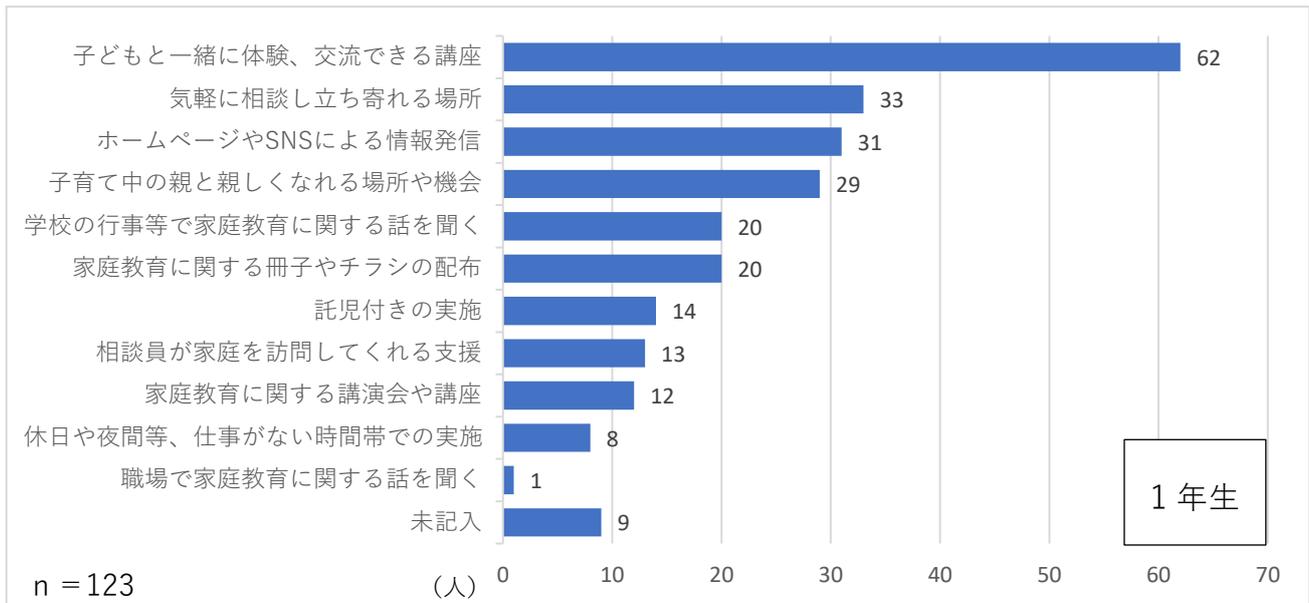
【その他】児童クラブ支援員（2）、上の子たち

7 家庭教育に関する情報の入手先や入手方法を教えてください。複数回答



【その他】自分のひらめき、情報の入手先が分からない

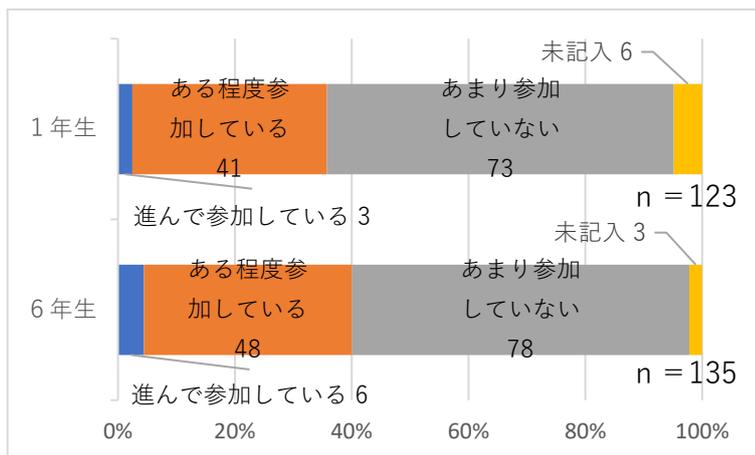
8 どのような家庭教育支援があればいいと思いますか。複数回答



【その他】いろいろな学区の人と交流できる機会や場所、子どもと親が楽しみながら参加できるもの

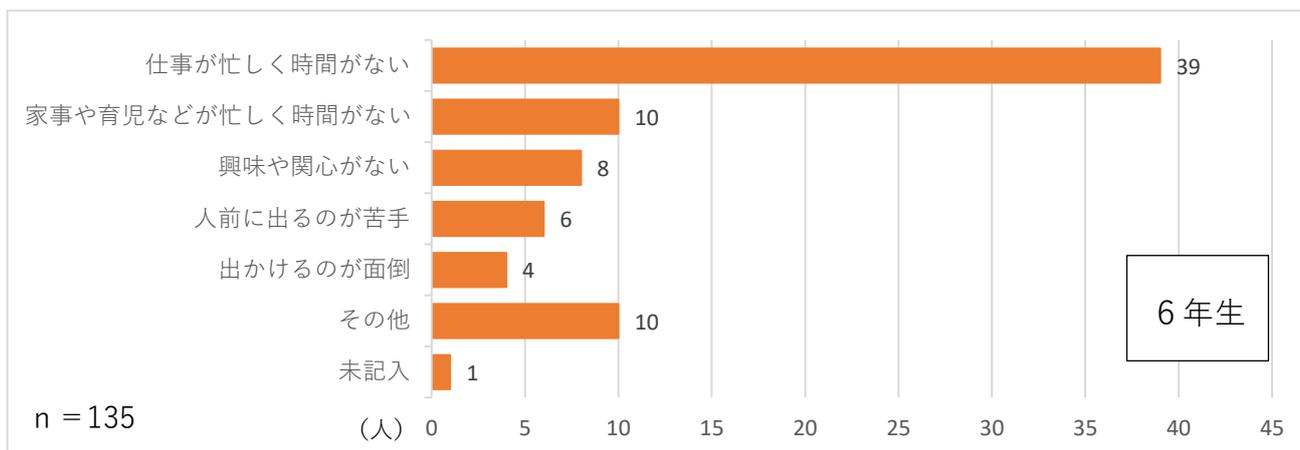
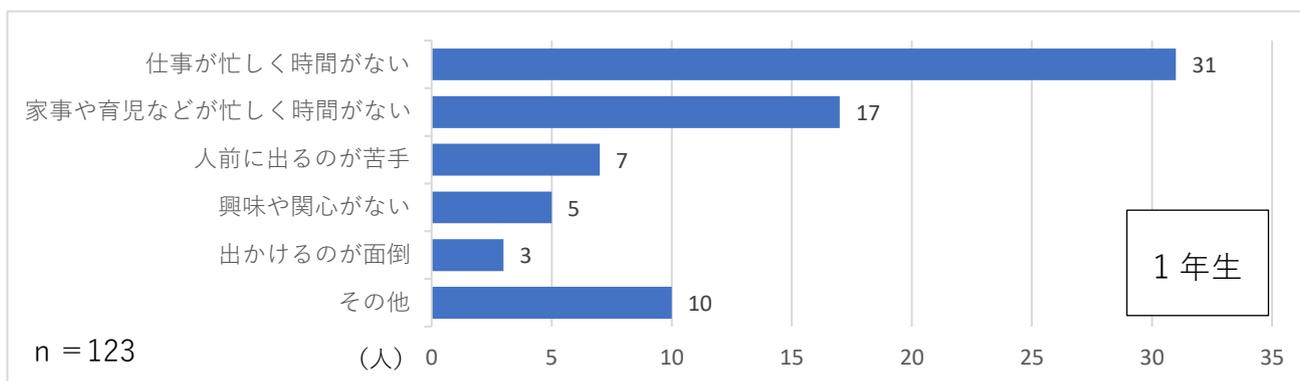
9 家庭教育について学ぶ機会があれば、参加していますか。

(人)



	1年生	6年生
進んで参加している	3	6
ある程度参加している	41	48
あまり参加していない	73	78
未記入	6	3

10 9で「あまり参加していない」を選んだ方は教えてください。「あまり参加していない」理由として、もっとも当てはまるもの1つを選んでください。



【その他】学ぶ機会があることを知らない（5）、参加したいと思うほどの機会がない（2）、今まで機会がなかった（2）、まずは家庭で話し合うことが大切、自分がちゃんとしていないことを思い知らされるから参加したくない、第1子ではないため、参加するほど悩んでない、体調が悪いため、教育する側のマナーやモラルが良ければ参加したい、習い事で忙しい、型にはまりすぎてしまうため、相談をしたり自分で調べている、家庭教育に力を入れていない、自分で選んでいる

1 1 コロナ禍により、家庭教育に関する新たな悩みや問題が生じたか。生じた方は、具体的にお書きください。（記述集計）

記述内容（要約）	1年生	6年生	計（人）
メディアとの関りについて（インターネット、スマートフォン、動画、テレビ、ゲームなど）	11	20	31
家庭での学習習慣の確立・学力の低下	5	12	17
外遊びの減少・外に出なくなった	9	6	15
ストレスの増加	6	5	11
体験活動が不足している	6	2	8
体力が低下している	5	1	6
時間の使い方・生活習慣の乱れ	5	0	5
コミュニケーション能力の低下	2	2	4
無気力になった	0	2	2
自主性がない	1	0	1
人と接する機会が減り家庭教育に関する情報が入らない	1	0	1
言葉遣いが乱暴になった	1	0	1

1 2 コロナ禍により、新たにできた家庭のルールはありますか。ある方は、具体的にお書きください。（記述集計）

記述内容（要約）	1年生	6年生	計（人）
新型コロナ予防（手洗い、マスク着用など）についてのルール	20	21	41
メディア（インターネット、スマートフォン、動画、テレビ、ゲームなど）に関するルール	8	10	18
体を動かす習慣づくり	0	8	8
学習に関するルール	4	1	5
生活習慣の確立について	2	3	5
お手伝いに関するルール	0	4	4
身近な体験活動の充実	2	1	3
命の大切さを考える	1	1	2
家族のコミュニケーションを大切にする	1	0	1
ストレスの発散方法を考える	0	1	1
お小遣いの管理をさせるようにした	0	1	1

【資料4】 日上市社会教育委員会議等開催経過

期日	開催	内容
R2.7.31	令和2年度 第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R2 生涯学習主要事業について</li> <li>・ 今後の会議のテーマの検討</li> </ul>
R2.10.5	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育について 共通理解・意見交換</li> </ul>
R3.1.22	第3回 (新型コロナウイルス感染拡大防 止のため、書面による開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員からの意見集約</li> <li>・ アンケートについて内容検討</li> </ul>
H3.3.17	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果について検証</li> <li>・ テーマを3つに分け協議</li> </ul>
R3.6.30	令和3年度 第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ別グループ協議 (家庭の教育力の充実のための手立てについて)</li> </ul>
R3.10.4	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ別グループ協議 (家庭の教育力の充実のための手立てについて)</li> </ul>
R3.11.29	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ別グループ協議 (本市への提言、まとめ)</li> </ul>
R4.3.25	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提言書の校正・最終確認</li> <li>・ 提言書の完成</li> </ul>

## 【資料5】

## 日立市社会教育委員名簿

(順不同・敬称略)

氏名	区分	所属	備考
行田 豊	学識経験者	日立きららライオンズクラブ	議長
飛田 隆	学識経験者	茨城キリスト教大学	副議長
古内 勝紀	学校教育関係者	日立市小中学校長会	R2.7～R3.6
窪木 隆之	学校教育関係者	日立市小中学校長会	R3.7～R4.6
松田 能枝	学校教育関係者	日立市立幼稚園・こども園長会	R2.7～R3.6
寺門 久美子	学校教育関係者	日立市立幼稚園・こども園長会	R3.7～R4.6
小野瀬 静香	社会教育関係者	茨城県県北生涯学習センター	
黒澤 秀子	社会教育関係者	ひたち生き生き百年塾推進本部	
持田 幸雄	社会教育関係者	日立市コミュニティ推進協議会	
中川 雅子	社会教育関係者	日立地区保護司会	
長谷川 美和	社会教育関係者	日立人権擁護委員協議会	
深谷 政幸	社会教育関係者	日立市青少年育成推進会議	
柴田 百恵	社会教育関係者	日立女性フォーラム	
根本 晃	社会教育関係者	日立市スポーツ推進委員協議会	
松浦 みゆき	社会教育関係者	日立市国際交流協議会	
草地 学	家庭教育関係者	日立市立小・中学校PTA連合会	
影山 美樹	家庭教育関係者	一般社団法人 ライフ・ケア・ひたち	
森戸 裕子	家庭教育関係者	NPO法人 ひたち親子の広場	



いいね! がいっぱい  
日立市